

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]

# acueducto

La revista española en Japón



**特集** バレンシア

**Las Fallas de Valencia**

- バレンシアのファリャ (火祭り) -

**LA MURALLA INVISIBLE - 透明の城壁 -**

**ジャパンウィーク®2012年**

**スペイン・バレンシアにて開催決定!**

¥0

GRATIS / 第9号

31-mayo-2012

[www.acueducto.jp](http://www.acueducto.jp)



Asociación Cultural Española  
スペイン文化協会

foto : © Ángel Maldonado

ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第9号をお届け致します



今年も多数の新生がスペイン語学科に入学してきました。他の大学でもスペイン語を選択する学生が多く、急ぎょクラスを増やしている話も聞きます。当然、スペイン語教師は引手あまたで、多忙を極めていようです。嬉しい悲鳴です。

スペイン語を選択した学生にその理由を聞きますと、サッカー、フラメンコ、

ガウディ、巡礼の道、世界遺産、ピカソ、スペイン語の重要性など様々ですが、何よりも大切なことは、スペイン大好き人間が一人でも多く増えることでしょう。それがやがて優れたスペイン紹介者を生むのですから。

昨年2月に大阪で、初めてスペインフェアを開催しました。予想を超える入場者で会場は大盛況、とくにフラメンコが始まると立錐の余地もないほどでした。関東ではセルバンテス文化センター主催「スペイン語の日」がにぎやかに開催されていますが、関西にはそのような

イベントの開催はありませんので、スペインフェアの開催は関西の多くのスペインファンにとって待望のイベントとなったようです。

今年も、6月に、第2回スペインフェアが開催されます。今年の会場は昨年の会場よりずっと広くなり、また内容も豊富です。必ずや参加者の皆さんにご満足いただけるものとなることでしょう。

特に今年は、東日本大震災チャリティーと題して、スペインフェアでの収益の一部を寄付に当て、参加者の皆さんとともに東北の復興をお祈りしたいと考えております。

坂東省次

坂東省次 ばんどうしょうじ / Shoji Bando

京都外国語大学スペイン語学科長・教授。

京都セルバンテス懇話会代表。

専攻はスペイン語学、日西交流史。

近著に『スペインを訪れた作家たち』(沖積舎)がある。

Les ofrecemos el número 9 de la revista ACUEDUCTO

Como cada año, este mes de abril se ha inaugurado un nuevo curso académico en mi universidad y una gran cantidad de alumnos ha comenzado su carrera de Estudios Hispánicos. El número de estudiantes que ha elegido el español se está incrementando también en otras universidades, lo cual hace que los profesores de castellano estemos mucho más ocupados por la gran demanda. Como docentes no hay mayor alegría que ésta. Cuando he preguntado a los alumnos por las razones que los han motivado en la elección, han mencionado el flamenco, Gaudí, el Camino de Santiago, Picasso, los Patrimonios de la Humanidad o el propio español. Esto significa que existen no pocos "hispanófilos" y que seguramente algunos de ellos en un futuro muy cercano van a convertirse en hispanistas.

Durante los días 19 y 20 de febrero del año pasado celebramos en Osaka la primera Feria de España y me siento orgulloso de decir que fue un éxito total y que recibió una gran acogida, por encima de todo pronóstico. Durante el espectáculo de flamenco el aforo estaba

completo y, si me permiten la expresión, no cabía ni un alfiler en la sala. Hasta entonces, en Tokio se había celebrado cada año el "Día del español", organizado por el Instituto Cervantes, con gran aceptación y animación. Sin embargo en el área de Kansai no existía ningún acontecimiento parecido. Por lo tanto, la Feria de España gozaba de mucha expectación por parte de los hispanófilos desde sus inicios.

Este año la segunda Feria de España tendrá lugar los días 9 y 10 de junio. En esta ocasión contamos con un establecimiento más amplio y cómodo y también con un programa mucho más extenso, gracias a lo cual esperamos que los asistentes se sientan satisfechos y puedan disfrutar de la cultura española. Asimismo, la celebración también posee un carácter benéfico, de manera que se reunirán donaciones para las víctimas del gran terremoto de Tohoku. Recemos juntos para que la zona afectada se restablezca lo antes posible.

Shoji Bando

Director de ACUEDUCTO

Colaboradores:





## スペインフェア

### 2012

6月 9日(土) 10:00 - 21:30  
10日(日) 10:00 - 20:30

AP梅田大阪〒530-0002  
大阪市北区曽根崎新地2-3-21 axビル4F  
問合せ: 06-6346-5554 (スペイン文化協会)  
<http://www.spainfair.jp>

<b>ESPECIAL 特集</b> . . . . .	5
Las Fallas de Valencia - バレンシアのファリャ(火祭り) -	
La muralla invisible - 透明の城壁 -	
ジャパンウィーク®2012年 スペイン・バレンシアにて開催決定!	
<b>VIARIOS その他</b> . . . . .	18
スペインのお勧めパル/レストラン	
第3回 Cafetería Bistrot (カフェテリア・ビストロ)	
西宮市国際交流協会 スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介	
RUMBO AL SOL Vol.2 カタルーニャのとある村のProcesión	
<b>ESPAÑOL スペイン語</b> . . . . .	23
スペイン語講座(IX) 比較構文《más~de lo que》について	
はじめてのスペイン語講座 第9回 再帰動詞について	
<b>GASTRONOMÍA グルメ</b> . . . . .	26
マドリッド食事情・その2 「新たな展開を模索して」	
<b>CINE 映画</b> . . . . .	30
スペイン映画情報	
『私の、生きる肌』/『ブラック・ブレット』/『ホセ・ルイス・ゲリン映画祭』	
<b>LIBRO 本</b> . . . . .	34
Donación de libros de Montse Watkins - モンセ・ワトキンスの書籍を寄贈 -	
<b>VIAJE 旅</b> . . . . .	37
Hanami más allá del Japón: El regalo oriental del Valle del Jerte	
<b>ENSAYO エッセイ</b> . . . . .	39
マドリッドの夜(9)	
<b>HISTORIA 歴史</b> . . . . .	40
DVD 『フランシスコ・ザビエルの遺産』	
- DVD "El legado de Francisco Javier en Japón" -	
ゲルニカ異聞——その2 外国に疎開したゲルニカの子供たち(2)	

El pasado número de acueducto ha tenido una amplia repercusión en el mundo del flamenco. Son muchas las escuelas de baile que nos han solicitado el envío de nuevos ejemplares. De cualquier forma, os recordamos que podéis encontrar todos los numeros anteriores de la revista en formato online en la página web: <http://www.acueducto.jp/>

Hemos recibido diversos correos con preguntas, peticiones de aclaración y felicitaciones por el artículo de Carmela Greco.

Sumamos nuestras felicitaciones a las de nuestros lectores por la honda sensación de privilegio que nos dejó tan extraordinaria artista. Deseamos que ella regrese pronto a Japón para verla bailar en el escenario.

Destacar nuestro más sincero agradecimiento al Estudio de Flamenco Miguelón, que nos puso en contacto con Carmela aprovechando su visita a Osaka.

前号のスペイン情報誌acueductoはフラメンコの世界から非常に大きな反響を頂き、フラメンコスクールの皆様より、さらに多くの部数を届けてほしいとの申し出がありました。既にご存知の方もおいでかと思いますが、弊誌バックナンバーは<http://www.acueducto.jp/>でも閲覧頂けます。

カルメラ・グレコ氏の記事には、読者の皆様より質問やさらに深い説明の依頼、お祝いの言葉など様々なお便りを受け取りました。

この非常に素晴らしいアーティストが私たちに与えて下さった特別な機会と深い感動に対し、読者そして私たち編集部よりお礼を申し上げます。ステージで踊る彼女をまた観ることが出来るよう、一日も早い再来日を心より望んでおります。

また、カルメラ氏が大阪に滞在中に、このような機会を作って下さったフラメンコスタジオ・ミゲロン様に心から感謝致します。

# Avanzamos

## A1



- Curso de español dirigido a todos aquellos que desean iniciarse en el estudio de la lengua .
- 8 unidades con más de 100 páginas a todo color y **CD incluido**.
- Muy visual y comunicativo abarcando todos los niveles lingüísticos (gramaticales, léxicos, fonéticos y de escritura).
- A lo largo de todo el curso, se ha buscado la participación constante de los estudiantes para que el aprendizaje sea activo.

**Unidad 3**  
**Hogar, dulce hogar**

En esta unidad estudiamos:

- Expresar existencia de personas y objetos
- Localización de personas y objetos
- Hay - Estar
- Describir un lugar
- Números ordinales

3.1. Relaciona los elementos de las tres columnas.

Hay	un una unos unas dos tres cuatro quince	armario lámpara sillones sillas camas mesas cuadernos libros
Hay	un una unos unas	libro toallas ordenador televisión teléfono plantas sofá sillones

3.2. ¿Qué hay en casa de Daniel? Completa con las palabras siguientes:

Armario	Cama	Cocina	Ducha	Fregadero	Horno
Lavabo	Espeso	Mesa	Mesita de noche	Nievera	Silla
Televisión	Estantería	Sofá	Sillón	Váter	Lámpara

3.3. Escucha la descripción del apartamento de Ana. Completa la tabla.

	En el salón	la habitación	el cuarto de baño	la cocina	el garaje
En	una televisión				
Hay					

5.8. Lee y luego pregunta a tu compañero/a.

A mí me gusta el baloncesto. ¿Y a ti?

A mí no me gustan los toros.

A mí también.

A mí tampoco.

5.9. Completa las frases con un pronombre (me, te, le...) y el verbo gustar.

- A mí *me gusta* salir con los amigos.
- ¿A ti \_\_\_\_\_ el fútbol?
- A Javier \_\_\_\_\_ los animales.
- A nosotros \_\_\_\_\_ ir al cine.
- ¿A vosotros \_\_\_\_\_ nadar?
- A ellas \_\_\_\_\_ la música.

5.10.a Escribe el nombre de estos alimentos.

5.10.b Clasifica los alimentos anteriores en:

Desayuno	Comida	Cena
	Paella	

Los españoles comen la paella normalmente al mediodía.

日本のスペイン語学習の現状を  
考慮した新しいスペイン語テキスト☆  
オールカラーCD付!  
1,890円(税込)



Asociación Cultural Española  
スペイン文化協会

**ADELANTE Co., Ltd.**  
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex  
2-5-8 Umeda Kita-ku  
Osaka 530-0001 Japan  
TEL: (+81) 6-6346-5554  
FAX: (+81) 6-6110-5122  
www.adelanteshop.jp  
info@adelanteshop.jp

特集

火祭りの都市、バレンシア

VALENCIA





**LAS FALLAS DE VALENCIA**  
バレンシアのファリャ(火祭り)

100キロ以上の爆竹が一斉に爆発するマスクレター



祭りの最終日には燃やされてしまう人形たち



ファリヤと呼ばれる火祭りはバレンシア市のものが有名であるが、バレンシア市から約40km離れた町アルシラや、パルマ・デ・マジョルカなどのバレンシア市以外の都市でも開催されている。また、南米にはバレンシア州からの移民が多く、1950年代からはアルゼンチンのマル・デ・プラタ市を初めとした南米の都市でも行なわれている。

バレンシアのファリヤは、大工たちが守護聖人である聖ヨセフの日(3月19日)に古い木材やかんなくずを燃やしていた習慣から始まったといわれている。別の説では、異教徒の儀式に由来するとされている。現在のファリヤでは、祭りの期間中、ポリエチレン製の巨大な張子の人形が街中に飾られ、聖ヨセフの日にそれらが燃やされる。ファリヤとは燃やされる人形と火祭り自体の両方をさす言葉である。この名称は、たいまつを意味するラテン語「ファクラ」に由来している。

ファリヤの最初の行事は、2月の最後の日曜日に行なわれるクリダー(スペイン語ではllamada「お呼び」の意味)である。クリダーではファリヤの参加者から選ばれた女王が参加者全員を前に火祭りの開始を宣言する。

3月15日から19日までの火祭り週間には、各地区のファリヤの団体が制作した人形が街中に飾られ、その出来栄を競いあう。それぞれの団体が寄付を募り人形作家にデザインと制作を依頼するので、人形の出来栄は各団体の経済力に左右されがちである。モチーフは政治的・社会的な話題などの風刺的 성격の強いものが多い。各地区のファリヤの団体はヌエボ・セントロ商店街で開催される展覧会に人形を出品し、人気投票が行なわれる。1位を獲得した連のよい人形は火の手を逃れ、バレンシア市内の火祭り博物館に永久保存され、祭りの時期以外にも人々の目に触れることになる。最終日の19日には1位以外の人形がすべて燃やされ、祭りは最高潮に達する。



バルコニーから  
マスクレーターを見物する人々



伝統衣装を身にまとった女性たち  
を見ることができるのも、火祭りの見  
所の一つ。

絹やレースを使って作られた伝統  
衣装は、オーダーメイドの物がほとん  
どだろう。

写真提供: © Miguel Ángel Puerta



大小様々な人形たちで構成されるファリャ  
写真提供: © Miguel Ángel Puerta

人形だけではなく、各地区のファリヤの団体にも賞が与えられる。バレンシア市内には約400の団体があるが、その中の13団体は「特別記念像部」に属している。残りの団体は、7つあるカテゴリーのいずれかに属し、それぞれのカテゴリーのもっとも優れたファリヤの団体が表彰される。

この期間中には「オフレンダ」と呼ばれる献花パレードも行なわれる。オフレンダでは、それぞれの衣装をまとい一輪のカーネーションを手にした各地区のファリヤの団体が、大聖堂の聖母マリア広場の巨大な聖母マリア像をめざしてパレードする。毎年、どの団体がどの色の花を奉納するかが決まっており、パレードの最後には色とりどりの花のマントをまとった聖母マリア像が完成する。



オフレンダと呼ばれる献花パレードの最後には鮮やかな花のマントをまとった巨大な聖母マリア像が完成する





ファリャは毎年様々なデザインで作られますが、政治家、スポーツ選手など、有名人を風刺したような二ノット(ファリャを構成する小型の人形)たちが沢山登場するのも面白いですね。



火祭りのもう一つの特徴は、花火や爆竹がふんだんに使用されることである。火祭り期間中には、毎朝6時頃に各地区のファリャの団体が伝統音楽の演奏と爆竹の音で市民を起こすが、これはデスペルター(「目覚め」の意味)とよばれる。また、3月初旬からは市役所前の広場で毎日午後2時にマスケターとよばれる爆竹の大会が開かれる。マスケターではマスケットとよばれる非常に大きな音を出す爆竹が使用され、辺り一帯は爆音と白い煙で満たされる。2008年3月19日のマクレスターでは249kgと史上最大量の火薬を含んだ爆竹が使用された。さらに、トゥーリア川沿いの公園では、毎晩、花火大会が行なわれる。

ラウル・ゲレロ著  
(『スペイン文化事典』丸善より)



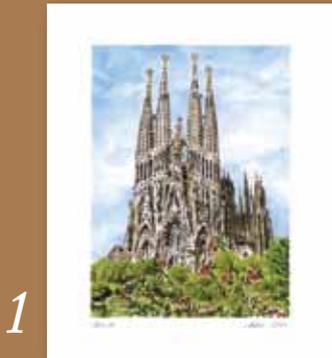
Raúl Guerrero  
ラウル・ゲレロ

1977年、マドリッド生まれ。バレンシアポリテクニカ大学でジャーナリズムを専攻、2001年に日本の文部科学省の国家留学生となり、京都大学大学院の修士・博士課程で人間環境学を専攻。スペイン語、日本語、英語、カタルーニャ語を話し、現在ドイツ語と韓国語を習得中。2007年から2010年まで日本に在住し、京都外国語大学、立命館大学、龍谷大学などで教鞭をとった後、帰国してマドリッド自治大学で日本史、日本宗教史と日本語を教え、現在バレンシアに在住。

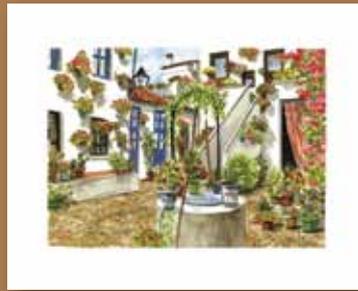
# 絵画ポスター

サイズ：29.6 X 23.9 cm  
価格：各1,260円

www.adelante.jp  
adelante shop



1



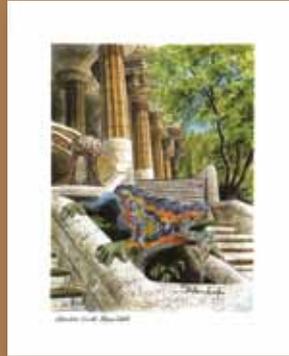
2



3



4



5



6

1. バルセロナ・サグラダ・ファミリア 2. アンダルシア地方・パティオ  
3. マドリッド・メトロポリスビル 4. ひまわり畑  
5. バルセロナ・グエル公園 6. マドリッド・マヨール広場

【お問合せ・ご注文は】 有限会社ADELANTE  
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F  
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122  
E-MAIL: info@adelanteshop.jp

## Spanish Communications

夏休みを利用しての短期留学、また秋からの長期留学をサポートします。学生ビザやスペイン各地域の情報等を記載した『スペイン留学について』の案内をお送りしますので、ご希望の方はスパニッシュコミュニケーションズまでご連絡ください。

スパニッシュコミュニケーションズはみなさんのスペイン留学をサポートします。

スペイン専門の留学エージェント(中南米の語学学校も一部紹介しています)

スペイン各地の語学学校のほか、スペインの大学が開講する語学コースを紹介・手続き

入学の手続き、ビザ申請書の作成、スペイン出発前のオリエンテーション等の留学サポート

スペイン留学に関する概算費用とともに留学プランを提案

### Spanish Communications

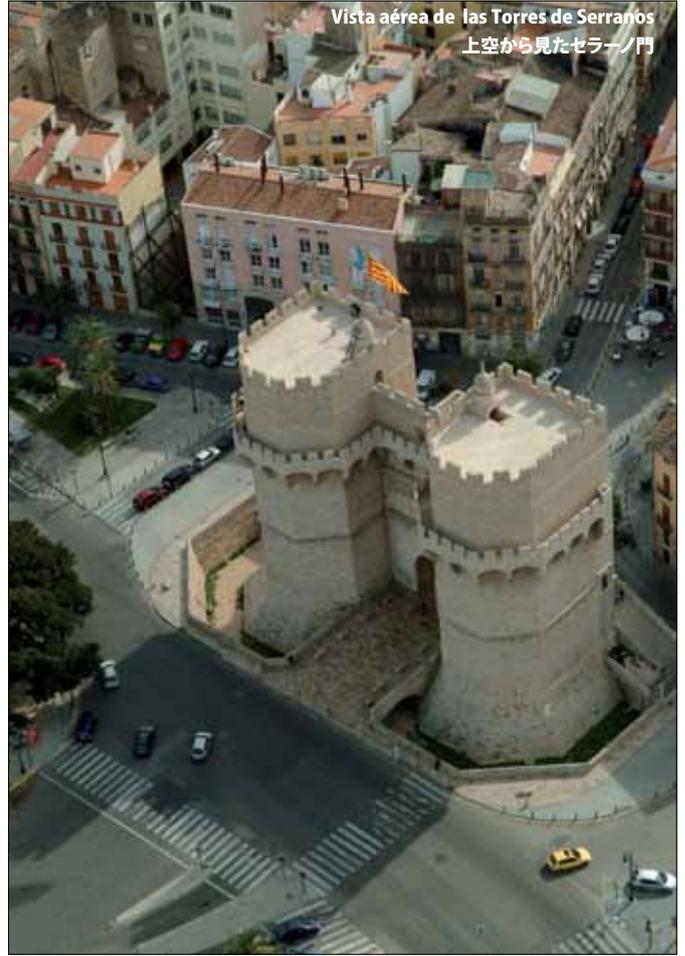


(株)スパニッシュコミュニケーションズ 〒140-0015 東京都品川区西大井 2-14-2, 7F  
TEL: 03-5709-9251 FAX: 03-5709-9241 e-mail: info@spacom.jp website: www.spacom.jp

Vista lateral de las Torres de Serranos  
横から見たセラノ門



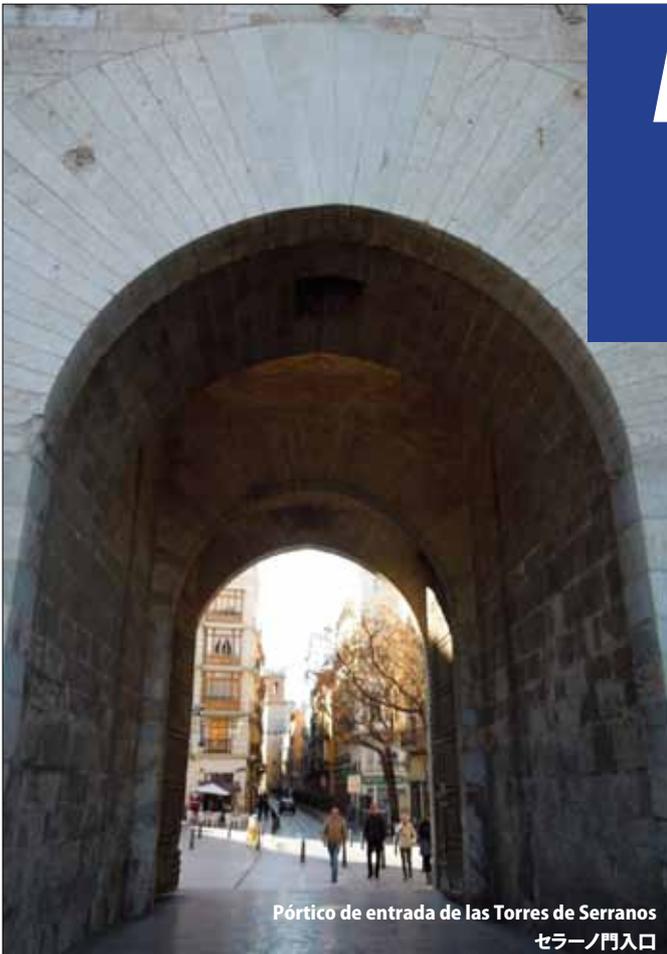
Vista aérea de las Torres de Serranos  
上空から見たセラノ門



# LA MURALLA INVISIBLE

- 透明の城壁 -

Pórtico de entrada de las Torres de Serranos  
セラノ門入口



Vista frontal de las Torres de Cuart  
正面から見たクアルト門



**D**entro del Medioevo no hay ciudad amurallada más desconocida que la de Valencia. Núcleo urbano con un pasado de más de dos mil años y murallas que empezaron a construirse en la época romana, se ampliaron en el periodo árabe y se asentaron durante la Edad Media.

Sin embargo el recinto amurallado valenciano fue demolido en 1865, en el proyecto de ampliación de la ciudad propulsado por el gobernador civil Cirilo Amorós y los restos actuales del muro son insignificantes. En realidad solo quedan un par de tramos pequeños en las Torres de Cuart y en la Plaza del Ángel.

Pero la auténtica singularidad de las murallas de la ciudad valenciana reside en sus puertas: las Torres de Serranos y las Torres de Cuart. Monumentales entradas al núcleo urbano de unas murallas que circunvalaban la zona y ya no existen en realidad llegó a haber un total de doce puertas.

Tanto las Torres de Serranos, entrada principal a la ciudad durante varios siglos, como las Torres de Cuart han sufrido diversos destinos a lo largo de su historia desde puestos de defensa o vigía, pasando por cárceles, hasta su destino actual como lugares turísticos. Fundamentalmente, las Torres de Serranos han servido como entrada principal al centro neurálgico de la urbe y como escenario de numerosos actos protocolarios incluso en la actualidad. Por otra parte, las Torres de Cuart han tenido un pasado bélico y sus heridas son todavía visibles en la piedra, siendo las más notables los agujeros que salpican los torreones y que fueron infringidos durante la Guerra de Independencia de Napoleón.

Sin embargo, dentro de la "invisibilidad" de la muralla incluso es posible semivislumbrar los restos de la muralla romana republicana en un sótano de la zona de la calle Avellanas...

Vicente Alcañiz Buceta



中世に作られた中でも、ほとんどと言っていい程知られていないのがバレンシア市の城壁です。街の中心部は2000年以上の歴史があり、城壁の建設はローマ時代から始まりました。その後、イスラム勢力統治下に拡大され、中世に完成されました。

しかし、バレンシア市の城壁は、当時の知事シリロ・アモロスが推進した都市拡張プロジェクトにより1865年に姿を消し、現在はほとんどその形跡をとどめていません。実際、クアルト門 (las Torres de Cuart) とアンヘル広場 (la Plaza del Ángel) の周辺に僅かに残る程度です。

しかし、この城壁の真の特徴は、その門にあります。現存するセラノー門 (las Torres de Serranos) やクアルト門に見られるように、城壁に囲われた市の中心部への立派な入り口であり、かつては12もの門が存在したそうです。

何世紀にもわたって街への入口であったセラノー門や、クアルト門は、その長い歴史の中で様々な役割を果たしてきました。砦や監視塔、刑務所などを経て、現在は観光スポットになっています。

街の中心へのメインエントランスであったセラノー門は、現在まで多くのイベントスポットとしての役割を果たしてきた一方、クアルト門は多くの戦いの舞台となり、今でも、門に点在するナポレオンに反旗を翻したスペイン独立戦争時代の弾痕をはじめとする、多くの傷跡を見ることができます。

また、アベジャナス通り (la calle Avellanas) の地下には、ローマ時代の城壁の名残をおぼろげに見ることができます…。

ビセンテ・アルカニス・ブセタ

写真左: Vista lateral de las Torres de Cuart (横から見たクアルト門)  
写真右: Parte trasera de las Torres de Serranos (セラノー門、背面)

写真提供: 左頁、右上航空写真、バレンシア観光局  
上記以外の写真5点: Vicente Alcañiz Buceta



Vicente Alcañiz Buceta  
ビセンテ・アルカニス・ブセタ

Lugar de nacimiento: Valencia. Terminó sus estudios en Periodismo en la Universidad CEU San Pablo de Valencia y después realizó un master de Periodismo en EE.UU. En la actualidad es profesor de español en diferentes instituciones educativas en Tokio y periodista.

バレンシア生まれ。CEU San Pablo大学でジャーナリズムを専攻後、同専門について米国の大学院でも修士課程を修める。現在は、東京でスペイン語講師をしながら、ジャーナリストとしての仕事を続けている。

# Japan Week

## ジャパンウィーク®

### 2012年

## スペイン・バレンシアにて 開催決定!

ジャパンウィーク®とは、日本の文化・芸能・美術・スポーツなどの公演や展示で日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、相互理解・友好親善を図る市民レベルの国際文化交流事業です。日本の伝統芸能から現代の日本を代表する文化まで幅広い参加の輪が広がっています。スペインでは、1992年のグラナダ市をはじめとし、セビージャ市、サラマンカ市でも開催。

心と心が触れ合う国際交流として、各参加者のニーズに合わせて現地の交流先を探す毎回好評の交流プログラムもあり、舞台や展示で見せるだけでなく、交流プログラムに参加することでより深い国際交流が体験できます。

第37回目となる2012年は、スペインのバレンシア市での開催が決定し、現在着々と準備が進められています。

同時に、民間親善大使として海外公演・展示を行うことができる出演者や出展者の方を募集中。あなたの日本をスペインの方々に紹介できる機会、一生忘れることのできない体験になることでしょう。



過去に開催されたジャパンウィーク®の公演より  
写真提供: 公益財団法人 国際親善協会



地元の方々との交流の様子



メイン会場となるPalau de la Música  
写真提供:バレンシア観光局

＜2012年ジャパンウィーク®開催概要＞  
 期間:11月24日(土)～29日(木)6日間  
 主催:公益財団法人 国際親善協会、  
 バレンシア市  
 会場:スペイン バレンシア市内  
 日本側参加予定者数:1,200人  
 スペイン側参加・観覧予定者数:20,000人

出演者、出展者募集中!  
 詳しくはホームページをご覧ください。  
<http://www.iffjapan.or.jp/>  
 お問い合わせ:ジャパンウィーク®事務局  
 03-5802-0351 (担当:林/阿部迄)

＜プログラム＞  
 オープニングフェスティバル  
 11/24(土)13:00～15:00(予定)  
 会場:Plaza Patriaca広場(予定)  
 スタート合図を広場の特設会場にて舞台公演  
 の演目を披露します。  
 オープニングレセプション  
 11/24(土)18:00～20:00(予定)  
 会場:Palacio De La Exposición(予定)  
 バレンシア市主催のウエルカムレセプションに  
 て参加証書の授与を行い、その後市側主催のカ  
 クテルパーティーが開催されます。  
 舞台公演会場、展示・実演  
 11/24(土)～11/29(木)6日間 (時間未定)  
 会場:Palau De La Música(予定)



オープニングフェスティバル会場Plaza Patriaca広場  
 写真提供:バレンシア観光局



茶道実演の様様

# 第37回 JAPAN WEEK 参加ツアー

スペイン バレンシアの旅 7日間  
 2012年11月23日(金)～11月29日(木)  
 旅行代金 178,000円

## ☆ツアーポイント

- ・バレンシアで開催される、ジャパンウィーク®  
 にご参加頂けます。
- ・バレンシアの市内観光だけでなく、マドリド  
 やバルセロナの見所も巡ります。
- ・添乗員も同行し、皆様のお世話をさせていただきます。
- ・往復、ヨーロッパ系の航空会社を利用し、ホ  
 テルクラスは弊社規定のAクラスを予定して  
 おります。

\*掲載ツアーは、この広告でのお申し込みは受け付けておりません。  
 資料(パンフレット)を当社右記支店までご請求下さい。



《イベント企画》  
 公益財団法人 国際親善協会

**パンフレット請求先はこちら↓です**

《ツアーのお問い合わせ・パンフレット請求先》  
 株日本旅行 関西企画旅行支店  
 担当:小嶋・谷川・前田  
 〒541-0051 大阪府中央区備後町3-4-1 山口玄ビル6階  
 TEL: 06-6209-0707 FAX: 06-6209-0606  
 営業時間:平日10:00～18:00 (土・日・祝日は休業)

企画12-33 K-1

# EL CAMINO DEL CORTADOR コルタドールへの道



歯科技工士や墓石の施工技術者、電気製品の設計など、さまざまな経歴を持つ横川剛貴さん。そんな彼が30歳を過ぎて出会ったのが、スペイン料理でした。そして、スペイン料理の世界でみつけたのは、コルタドール(生ハムのサービスマン)。昨年、東京で行われた全国コンテストでは、準優勝となり、スペインでも認められる存在へと駆け上がりました。そんな横川さんがコルタドールへの道について語ってくれました。

私はこれまで、いろんな職種を経験してきましたが、一方でずっと興味を持ち続けてきたのが「料理」でした。そして30歳を過ぎた2006年1月、これからずっと取り組みたいものは何かを考えた時、「料理の道に進みたい」と考えるようになったんです。そして、何度か食べに行き、印象に残っていたスペイン料理店「エル・フォゴン」の求人に応募し、株式会社バハルボールに入社しました。

以前、居酒屋や焼肉店で少し働いたことがあったので、ある程度料理のことはわかってたつもりでしたが、スペイン料理に関しては勉強することばかりでしたね。「エル・フォゴン」では、炭焼きの担当から始まり、バルやレストランでのサービス、キッチンでの調理など、幅広く経験させていただけたことで、自分の持ち味や興味の対象の幅が増えていったように思います。

その後、1号店の「ラ・マーサ」での勤務を経て、3号店の「ラ・ガジェガ」へ。コルタドールという専門職があることを知ったのはそのころですね。生ハムのカットは普段からやっていたことなので、「仕事をしながら腕を磨きたい」と思うようになりました。さらに、食品見本市でコルタドールの解説DVDをいただいたのを機に、さらにコルタドールに夢中になりましたね。

そして一昨年、店の仲間とハモンのカット講習会に参加。そこでコルタドールのコンテスト「第3回アンダルシア産イベリコハム公式コルタドールコンテスト」があることを知り、チャレンジすることにしました。

予選は去年、東京、京都、長崎の3個所で行われ、京都だけでも約30人がエントリーしていましたが、意外とスムーズにパスすることができました。そしてその3カ月後、東京で決勝が行われたのです。内容は、1時

間の制限時間内に各エリアから2人ずつ選ばれた代表の計6人が、マサ(モモ裏)100グラム、コントラマサ(前モモ)80グラム、プンタ(尻)60グラムをどんどんお皿に盛りつけていき、最後にプレゼンテーション用の一皿を用意するというものでした。カットングに関しては、普段お店でやっていることなので、そこそこ自信はありました。プレゼンテーション用の一皿は、各部位の味の違いを楽しんでいただくというコンセプトで盛りつけました。結果は、私の準優勝。優勝こそは逃しましたが、全国2位になれたので、うれしかったですね。

そして今年、コンテストの優勝者と準優勝者として、アンダルシアへの研修に招待していただきました。そこではイベリコ豚を飼育するデエサ(人工の牧草地)、ハモンの工場などを視察。イベリコ豚の飼育やハモンの製造に携わる人の努力や知恵、そしてスペインの食の伝統を目の当たりにすることができ、コルタドールとして、それらを正しく伝えていかなければならないという責任感がいっそう強くなりました。

帰国後も、私は「ラ・ガジェガ」で生ハムのカットングやホールでのサービスなどを担当していますが、これまで得た知識や、カットングの技術を他のスタッフに伝えたいと思っています。そして、生ハムのカットングやサービスを通して、スペイン料理の「おいしさ」、「たのしさ」をお客さまに知っていただけるよう心がけています。

バハルボールは、さまざまなことを幅広く経験させていただきながら自分の興味の対象をみつけ、チャレンジできる職場だと思います。これからバハルボールに入社する人にも、スペイン料理の魅力をお客さまに伝える仕事を通して、自分の意欲をどんどんカタチにしていってほしいですね。

(横川剛貴)



写真上:アンダルシア研修中の様様が現地の新聞で紹介されました。  
写真左:コルタドールコンテストで準優勝。手に副賞のアンダルシア研修旅行の切符が!  
写真右上:研修中に訪れたデエサ。

## コルタドールとは・・・

コルタドール(Cortador)とは、熟成度合い、品質、管理まで生ハムの全てに熟知した、「生ハム職人」と呼ぶに値する存在。

専門的な知識はもちろんのこと、大きな生ハムの塊に、薄く均等になるようなナイフを滑らせて、平らな断面になるようにカットする確かな技術を身につけていなければなりません。

カットによって味が変わるとまで言われる生ハムには、まさに必要不可欠な存在です。

横川さんがコルタドールとしての腕を奮う「スペイン食堂 ラ・ガジェガ」  
詳細はウェブページをご覧ください! <http://www.la-gallega.jp/>



# スタッフ募集中!

ディレクター、店長・店長候補、アルバイト

企画力、サービス力、調理技術、語学力を活かしながら、  
会社と一緒に成長していきませんか?  
未経験の方もしっかりサポートします。安心してスタートできます。

☆正社員は約1ヶ月のVacationがあります!!

☆男性社員も育児休暇があります!

詳細は、ホームページをご覧ください。  
<http://www.bajarbol.jp/>

## iVamos a trabajar juntos!

■お問い合わせ先■

株式会社バハルボール

京都市中京区寺町通二条下ル妙満寺前町446 若林ビル4階

TEL:075-212-5703 採用担当まで

◆勤務地

■ La Masa (ラ・マーサ)

京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町446 若林ビル1F



■ EL FOGON (エル・フォゴン)

京都市中京区御幸町御池上ル亀屋町380



■ La Gallega (ラ・ガジェガ)

京都市東山区川端三条下ル東側大黒町137



■ FUIGO (フイゴ)

京都市中京区三条高倉東入ル樹屋町55 白鳥ビル2F

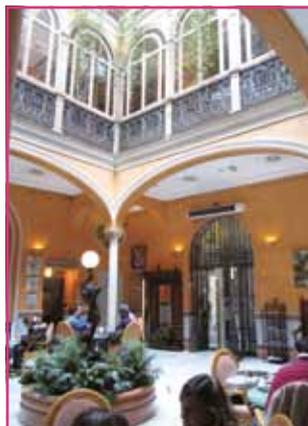


## スペインのお勧めバル／レストラン

### 第3回 CAFETERÍA BISTROT (カフェテリア・ビストロ)

セビージャ中心部に位置する4つ星のHOTEL TABERNA DEL ALBARDERO SEVILLAは、旧セビージャ詩人José Antonio Cavestany邸宅で、当時の雰囲気を持ちながら19世紀に現在の形に改築された伝統色溢れるホテルである。1階フロアーのアンダルシア特有のパティオ（中庭）が、吹き抜けの高い天井から入る陽に照らされ空間を生き生きとさせている。このホテルのオーナーは料理学校も経営している関係上、同フロアーにあるCAFETERÍA BISTROT（カフェテリア・ビストロ）では、リーズナブルな価格でおいしい食事をいただくことができる。ランチは、スターター5種類、魚4種と肉4種、デザート6種からそれぞれ1品、合計3品で平日は12.90ユーロ、祝日と週末は17.50ユーロ。ディナーは、スターター6種類、魚4種、肉4種、デザートは6種からのやはり合計3品で、19.90ユーロ（上記全て税込）といずれも嬉しい価格となっている。ランチタイム後はお茶やケーキが楽しめるカフェに変わりリラックスには最適だ。伝統的セビージャのパティオと旧大邸宅の雰囲気を十分楽しみながら、是非とも美味しいお料理に舌鼓を打ってはいかがであろうか。

文・写真 田中富子



上：ポーチドエッグと魚フライ付アーティチョークのソテー  
左：セビージャには特別な色があるという。ここにはその色がたくさん集まっている。  
下：実習生が心地よいサービスをしてくれる。



● 住所：C/Zaragoza, 20, SEVILLA

● 電話：+34 954 50 27 21

● HP：www.tabernadelalbardero.es

注意：上記情報は、2012年5月時点のもので変更する可能性があります。



田中 富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワード、米通信機会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。

2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳、留学コーディネーター等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。

HP: www.creapasion.com / http://spain.fc2web.com/

## 西宮市国際交流協会

### スペイン語おしゃべりの会 活動のご紹介

西宮市国際交流協会では3月11日に、恒例（年4回）の「スペイン語おしゃべりの会」を開催致しました。会の冒頭では、この日が丁度東日本大震災の1年目にあたることから犠牲者に1分間の黙祷を捧げました。

今回は、スペイン・ガリシア地方出身、Juan José López Pazo氏を講師に迎え、最近同氏が一時帰国した時の写真も含め、映像を使ってガリシア地方の紹介をして頂きました。

巡礼の道で有名なサンティアゴ・デ・コンポステーラを州都にもつガリシアは、スペインの中でも独自の豊かな文化を持つ地方です。講師からは、ガリシア人の気質が日本人に似ているという指摘があり、出席者は大いに興味をもたれたようです。

今回は、遠方にお住まいの方も含めて、定員を大幅に越える40名近

くの申込があり、数名の方に参加をお断りせざるを得ない状況になりました。お断りさせて頂いた方にはこの誌面をお借りして再度お詫び致します。改めてスペインや中南米の文化、言葉に関心の高い方が多いことを実感しました。

従来は講師の話す内容に参加者が耳を傾けるとい、講義形式の会でしたが、今回は本来の趣旨である「おしゃべりの会」になったように思います。参加者の中に3人のスペイン語圏の方がおられたこと、更に講師が日本語に堪能で日本語での質問にも対応できたことから、多くの参加者が活発に発言されました。

次回は7月8日（日）にスペインシリーズ第5回目「バレンシア」の話を予定しています。

文・写真提供 谷善三

映像、写真を使って楽しくガリシア地方をご紹介頂きました。



#### スペイン語おしゃべりの会 次回開催予定

日 時：2012年7月8日（日）午後2:00-3:30

場 所：〒662-0911 西宮市池田町11-1 フレンテ西宮 4階  
（公財）西宮市国際交流協会 会議室

ゲスト：Francisco Torregrosa Puertaさん（スペイン出身）

参加費：500円 / 定 員：25名（先着順）

お申し込みはお電話、FAX、E-mailにて（6月14日より受付開始）

お電話：(0798)32-8680 / FAX：(0798)32-8678

E-mail: nia930@sound.ocn.ne.jp

# RUMBO AL SOL

## Vol.2 カタルーニャのとある村のProcesión



1. カタツムリの殻に灯油を入れたものを壁に貼りつけ、これに火を灯します。
2. 十字架を背負ったキリスト像の山車。家の2階の窓から覗いている人もいますね。
3. La Danza de la Muerte 太鼓の音に合わせてがい骨の衣装を着た5人がゆっくり踊ります。
4. Nazarenos (受難者)の衣装を着た子供たち。口ウソク片手に歩きます。



今回はスペイン・カタルーニャ地方にあるベルジェス (Verges) という村 (人口1,200人) で毎年行われているプロセシオン (Procesión) についてご紹介いたします。プロセシオンとは、セマナサンタ (聖週間) の聖木曜日 (Jueves Santo) に行われるカトリック教の重要な伝統行事の1つであり、キリストの受難を再現しながら街中を練り歩く行進のことを指します。スペインではセピージャがとて有名ですが、今回、私はカタルーニャ州のジローナという都市から北東へ20Kmほどにあるベルジェスに行ってきました。このベルジェスでもプロセシオンの歴史は古く、1666年の文献に残されています。

村に到着後、プロセシオンを待つものの、なんと開始時刻は午前0時。開始時刻に合わせて、村の電灯はほとんど消され、代わりにたいまつやカタツムリの殻に火が灯されていきます。その後、音楽隊や聖歌隊と共に、十字架を背負ったイエス・キリスト像や聖母マリア像等が村中を行進していきます。パレードのような華やかなイメージとは異なり、静かで厳かな雰囲気漂います。

ここベルジェスでは、世界で唯一現存する“La Danza de la Muerte”の行進を見ることができます。“La Danza de la Muerte”は、故人に対する先祖伝来の崇拝の儀式と言われており、14~17世紀にヨーロッパ中に大流行したペストに強く結びついています。このダンスは、がい骨の衣装を身にまとった5人で構成されており、死の象徴である鎌、旗を持った大人2人、灰の入った小皿を持った子供2人、そして針のない時計を持った子供1人が登場します。このダンスにより、『お金持ち、貧乏、貴族、泥棒等関係なく、死は誰にでも訪れ、また時間に容赦はなく、いつ訪れるかは誰にもわからない』ということを表わしています。また、行進ではとんがり帽子に目の部分だけ開いた衣装で受難者を表す“Nazarenos”の衣装も目を引きます。

大昔、ミサはラテン語で行われていたため、村人にとって理解するのが難しく、このプロセシオンはキリスト教の信仰を伝えていく重要な役割を果たしていたとのことです。ちなみに、行進が終わったのは夜中の3時。スペインのお祭りの賑やかで華やかなイメージとはまた違った一面を見ることができました。セマナサンタの期間中、スペイン各地で大小さまざまなプロセシオンがありますので、機会のある方は一度ご覧になってください。

文・写真 山下智子



山下智子  
やましたともこ / Tomoko Yamashita

大阪市出身。  
旅先の沖縄で知り合ったスペイン人男性と縁があり、2008年結婚。約3年間の日本での生活の後、2011年9月、思い切って夫と共にスペインに移住。現在バルセロナ近郊在住。趣味は、安くて美味しいものを食べることに旅行すること。スペインでの日々の発見を伝えます！

¿Sabes lo que es una onomatopeya? ¿Conoces las onomatopeyas españolas? La definición de onomatopeya según la RAE: (Diccionario de la Real Academia Española)

1. f. Imitación o recreación del sonido de algo en el vocablo que se forma para significarlo. Muchas palabras han sido formadas por onomatopeya.
2. f. U. en algunos casos para referirse a fenómenos visuales; p. ej., tic nervioso, zigzag.
3. f. Vocablo que imita o recrea el sonido de la cosa o la acción nombrada.

... Y ¿cuál es la etimología de la palabra onomatopeya? La palabra Onomatopeya proviene del griego y concretamente de las palabras: Onoma (nombre) y Poiein (Poema)

Unos ejemplos de onomatopeyas:

"Plas plas plas", recrea por ejemplo: la palabra aplauso  
Romromrrr: el ronquido

El español tiene muchas onomatopeyas y se usan mucho.

皆さんは『onomatopeya』とは何かご存知ですか? またスペイン語の『onomatopeya』をご存知でしょうか? RAE (Diccionario de la Real Academia Española) スペイン語辞典によると『onomatopeya』には次のような意味がございます。

1. (女性形) 何らかの音を模倣または再現するのに使われる言葉。擬音語。
2. (女性形) 時に (人や物の) 様子、視覚的現象などを感覚的に描写するために使われる。例: 神経性チック、ジグザグ
3. (女性形) ある特定の物や動作の音を模倣または再現するのに使われる言葉。擬態語

...そして『onomatopeya』の言葉の由来は何処から来ているかご存知ですか? 『Onomatopeya』という言葉は、ギリシャ語のOnoma (名前) と Poiein (ポエム、詩) という言葉から出来た言葉です。

擬音/擬態・擬声語の例をここでいくつかご紹介しましょう:

Plas plas plas: 拍手の音  
Romromrrr: いびきの音

スペイン語にはたくさんの擬音があり、よく使われます。

## Las onomatopeyas y los animales

擬声語と動物

1. 次の擬声語はそれぞれある動物の鳴き声をあらわしています。それぞれの擬声語に当てはまる動物の絵を選んでください:

1. Cada una de estas onomatopeyas corresponde a un animal. Relaciona cada frase con un dibujo y una definición:

1. ¡Miau!
2. ¡Guau guau!
3. ¡Beee!
4. ¡Pío pío!
5. ¡Croa croa!
6. ¡Muuu...!
7. ¡Cua cua!
8. ¡Hin!
9. ¡Zzzzzz!
10. ¡Quiquiriqui!

2. 下記の動詞に当てはまる擬声語を前のエクササイズ1にある擬声語(1-10)から選んでください:

2. Relaciona el verbo correcto con una onomatopeya del ejercicio anterior:

- ① Cacarear
- ② Relinchar
- ③ Graznar
- ④ Croar
- ⑤ Piar
- ⑥ Mugir
- ⑦ Maullar
- ⑧ Ladrar
- ⑨ Berrear
- ⑩ Zumar

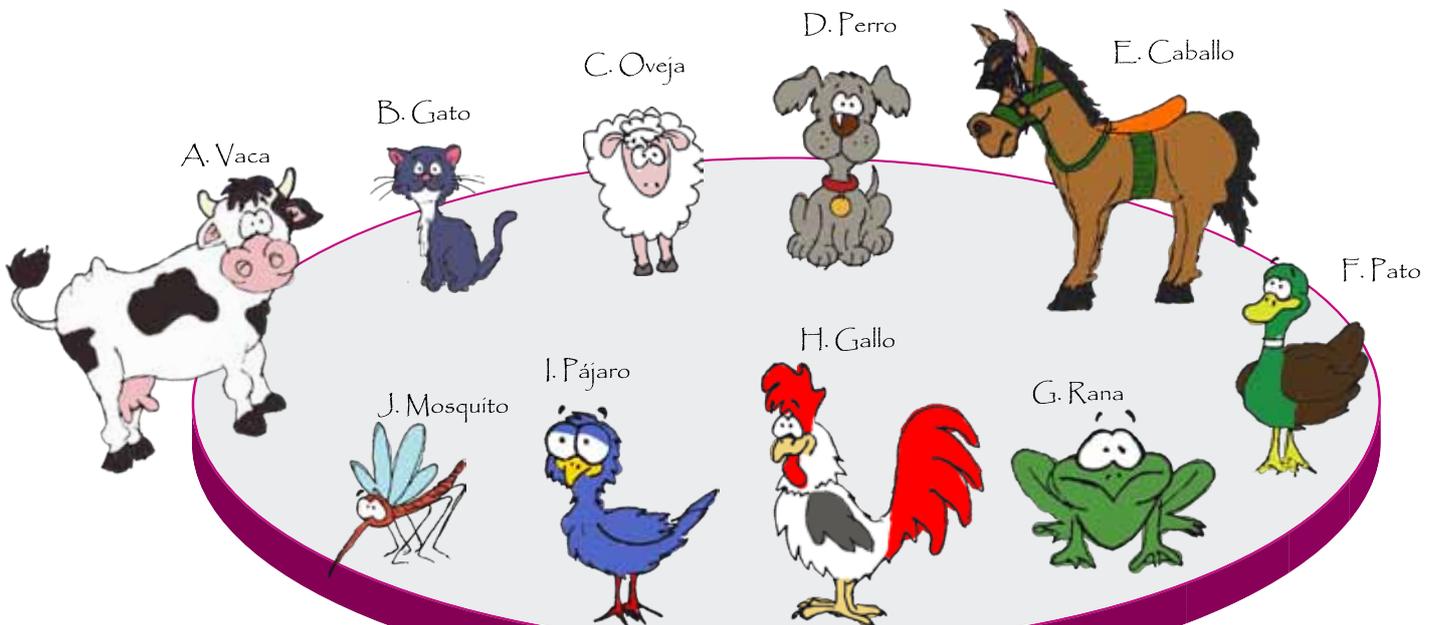
## Las onomatopeyas y las sensaciones

擬態語と感情

3. 左の列の擬態語を意味する言葉または表現を右の列から選んでください:

3. Relaciona una onomatopeya con una palabra o expresión que expresa sensación o acción.

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. ¡Hummm!    | A. Estornudar  |
| 2. ¡ay!       | B. Dar un beso |
| 3. ¡muac!     | C. Enfadarse   |
| 4. ¡achís!    | D. Reirse      |
| 5. ¡jijiji!   | E. Llorar      |
| 6. ¡grrrr!    | F. ¡Qué rico!  |
| 7. ¡buhaaaaa! | G. Sorprender  |
| 8. ¡zzzzz!    | H. ¡Qué asco!  |
| 9. ¡buajiji!  | I. ¡Qué dolor! |
| 10. ¡Uy!      | J. Dormir      |



# clic



## amar, vivir y sentir en español

# スペイン語 コース セビリア カディス



**International House**  
Sevilla y Cádiz

クリック・インターナショナルハウス・セビリア&カディス

Email: [japan@clic.es](mailto:japan@clic.es) (日本語どうぞ)

[www.clic.es](http://www.clic.es)



## Las onomatopeyas y los ruidos

擬音語と生活音

Además de imitar sonidos de animales y sensaciones, las onomatopeyas son recursos literarios en el que se utilizan palabras que imitan sonidos naturales como por ejemplo el "tic tac" que reproduce el ruido de un reloj en funcionamiento. Aquí tienes otros ejemplos de este tipo de onomatopeyas:

1. **Glu glu glu**: imita el sonido del agua
2. **Pum**: imita el sonido de golpes
3. **Pumba**: imita el sonido de una caída tras un golpe
4. **Tra tra tra**: imita el ruido de las armas como metralletas al ser disparadas
5. **Plas plas plas**: imita el sonido del aplauso
6. **Talán talán**: imita el sonido de las campanas
7. **Piii**: imita el sonido del silbato
8. **Ding dong**: imita el sonido del timbre de las puertas

動物の鳴き声や感情を音で模倣、再現する以外に、擬音は私たちの周りにある生活音を模倣、再現するためにも使われます。例えば時計が動く音、"tic tac" などがあります。他にも同様の目的で使われる擬音語をご紹介します。

1. Glu glu glu: ゴクゴク 水の音を模倣したもの
2. Pum: バン! バンチする音を模倣したもの
3. Pumba: ぶつかって倒れるときの音
4. Tra tra tra: ダダダ、機関銃などを撃つ音
5. Plas plas plas: パチパチパチ、拍手の音
6. Talán talán: カランカラン、鐘の音
7. Piii: ピー! 笛の音
8. Ding dong: ビンポン! 玄関のチャイムの音

4. 左の欄にある擬音語 (1-8) にあうシチュエーションを下記から選んでください:

4. *Elige una de las onomatopeyas de la columna anterior (1-8) para cada una de las siguientes situaciones:*

- A. Aquel domingo por la mañana era soleado y a lo lejos se oían las campanas de la iglesia.
- B. Cuando terminó de cantar todo el público se puso de pie y le aplaudió.
- C. Fue una batalla terrible, de un lado los republicanos y del otro los franquistas: era un infierno en el que sólo se podía oír el ruido aterrador de las metralletas.
- D. El equipo de Barcelona estaba a punto de marcar un gol, cuando, de repente, el árbitro silbó el final del partido.
- E. Estaba tranquilamente dormido cuando llamaron a mi puerta y me desperté de golpe.
- F. En verano, el ruido del agua tiene el poder de refrescar. Es una sensación muy refrescante oír el sonido del agua corriendo en las fuentes.
- G. ¡Estaba parado en un semáforo en rojo cuando, de repente, otro coche chocó contra mí por detrás!
- H. ¡Llevaba mi nuevo ordenador portátil en el bolso, cuando, de repente, éste se abrió y el ordenador cayó al suelo rompiéndose en pedazos!

### Claves:

Ejercicio 1: 1-B, 2-D, 3-C, 4-I, 5-G, 6-A, 7-F, 8-E, 9-J, 10-H

Ejercicio 2: ①-10, ②-8, ③-7, ④-5, ⑤-4, ⑥-6, ⑦-1, ⑧-2, ⑨-3, ⑩-9

Ejercicio 3: 1-F, 2-I, 3-B, 4-A, 5-D, 6-C, 7-E, 8-J, 9-H, 10-G

Ejercicio 4: A-6, B-5, C-4, D-7, E-8, F-1, G-3, H-2



## ファンサ (スペイン/リオハ)

1959年創業。食器メーカーとして、50年以上に渡り、スペイン・ポルトガル市場のリーダー的存在として活躍しています。耐熱性陶器に特化しています。

# CAZUELA

## カスエラ

カスエラはスペイン製の直火可能な耐熱陶器。スペインではこの器を鍋代わりに、炒めたり、煮たりと様々な料理を作る伝統的な陶器です。



### カスエラ 12cm

オープン価格  
(参考上代) **¥840**(税込)

外径/(約)直径12×高さ3cm  
内径/(約)直径10×高さ2.5cm



### カスエラ 14cm

オープン価格  
(参考上代) **¥1,050**(税込)

外径/(約)直径14×高さ3.5cm  
内径/(約)直径12×高さ3cm



### カスエラ 17cm

オープン価格  
(参考上代) **¥1,470**(税込)

外径/(約)直径17×高さ4.2cm  
内径/(約)直径14.5×高さ4cm



### カスエラ 19cm

オープン価格  
(参考上代) **¥1,680**(税込)

外径/(約)直径19×高さ4.7cm  
内径/(約)直径16.5×高さ4.5cm



### カスエラ 21cm

オープン価格  
(参考上代) **¥2,100**(税込)

外径/(約)直径21×高さ5cm  
内径/(約)直径18.5×高さ4.8cm

## 使用方法

初回使用時には大きな鍋にカスエラを入れ、最低3時間ほど水につけてください。その後小麦粉をティースプーン1杯入れて沸騰させてください。

### △ 使用上の注意点

※使用時の急激な温度変化は避けてください。 ※空焚きは避けてください。  
※ご使用後はよく乾燥させて保管してください。

※商品によりサイズに若干の差異が生じる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

※ラベルは予告なく変更される場合があります。

## 対応機器



電気コンロ



ガスコンロ



電子レンジ



オーブン



食洗機

※IH調理器には対応しておりません。

www.  
adelante  
shop .jp

【お問合せ・ご注文は】 有限会社ADELANTE  
〒530-0001 大阪府北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F  
TEL: 06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122  
E-MAIL: info@adelanteshop.jp

# 比較構文《más～de lo que》について

スペイン語がある程度できるようになったら使いたくなるのが比較を表す文章です。人というものは無意識に比較をしてしまう性質を持っています。そのくせ、いざ自分が他人と比較されるとなるとあまり気分がよくないものですね。今回扱う比較の構文は、文法的に言って、単文ではなく複文です。ですから、スペイン語の中級者が挑戦すべき表現なのです。

通常、比較構文では、比較される項目は1つです(以下の例文では赤字の部分が比べられています)。

Yo tengo más mangas que **tú**.

僕は君よりたくさん漫画を持っている。

※(「マンガ」はスペイン語になっています。ただし、el mangaと男性形です)

Yo **te** quiero mucho más que **a ella**.

俺は彼女より君のことをずっと愛してるよ。

**Hoy** me encuentro mejor que **ayer**.

今日は昨日より体調がよい。

このように比較される語は、主語であったり、目的語であったり、副詞であったりと様々です。動詞を比較することもできます。

Ella **trabaja** más que **estudia**.

彼女は勉強するよりもむしろ仕事をしている。

この文ではestudiaとtrabajaという2つの動詞が比較されています。

では、もう少し後半部分を複雑にして、「私が思っていた」を入れてみましょう。例として、「私の彼は私が思っていたより賢い」という文を作ってみましょう。

Mi novio es más inteligente que yo creía.

私の彼は思っていたより賢い。

この文は、現代のスペイン語では言いませんが、必ずしも間違いではありません。実際、昔のスペイン語ではこのような構文を使っていました。しかし、中世より新しい構文が発達して現代のスペイン語では次のように言います。

Mi novio es más inteligente **de lo que** yo creía.

私の彼は思っていたより賢い。

この文にはポイントが二つあります。一つは、構文の前半部と後半部をつなぐのにこれまでの《que》ではなく、《de》を使うことです。もう一つは、後半の比べられる要素が直接《de～》の後ろに来るのではなくて、《lo que》という関係代名詞を伴うことです。この場合の関係代名詞は先行詞がない中性のものです。例えば、

No entiendo **lo que tú dices**.

君の言うことがわかりません。

の《lo que tú dices》(君の言うこと)と同じものです。つまり、「私が思っていたこと」(lo que yo creía)と比べて「より賢い」(más inteligente)ということです。文法的には、Comparativa Relativa (関係節比較構文)と呼ばれるのですが、本誌では「デロケ構文」(または、「デロケ比較」)と呼んでおきましょう。

「デロケ構文」の後半部には、〈creer〉、〈pensar〉、〈imaginar〉、〈esperar〉、〈parecer〉などが使われます、これらは「挿入動詞」(verbo parentético)と呼ばれ、通常、後に目的語の《que～》を伴う動詞です(Pienso que～)。意味的に「意見動詞」と言ってもよいでしょう。

それでは、「デロケ構文」の例をどうぞ。

La torre estaba más lejos de lo que parecía.

タワーは思ったよりも遠くにあった。

He sacado mejores notas de lo que esperaba.

私は期待したよりもよい成績を取った。

Este nuevo smartphone es mucho más útil de lo que parece.

この新しいスマホは見かけよりずっと使える。

ここまでの「デロケ構文」では関係代名詞《que》に付く定冠詞は中性の《lo》でした。通常は《lo que》と中性の例を見かけることが多いかも知れませんが、男性形や女性形の例もあるのです。

Estudiar español supone más ventajas de **las que** usted imagina.

スペイン語を勉強することはあなたが想像するより多くの利点がありますよ。

この例文では、比較の《más》が名詞《ventajas》に係っています。この場合は通常、定冠詞はその名詞の性数に一致します(ventajas → las)。男性形の例も見てください。

Había más matriculados de **los que** esperaba.

期待したよりもたくさんの受講生がいた。

このように《más》が名詞に係る場合、その名詞の性数に関係詞の冠詞は一致します。実際には一致しない場合(de lo que esperaba)もあるのですが、ネイティブは一致する方を選ぶようです。

最後に、後半の動詞が「挿入動詞」ではないケースも見てください。

Ella gasta más dinero **del que** gana.

彼女は稼ぐよりもたくさんお金を浪費する。

《del que》とここでは男性単数の定冠詞《el》が使われています。そして、その後には名詞の《dinero》が省略されているのです。つまり、

Ella gasta más dinero del (dinero) que gana.

と考えられます。

「デロケ比較」を使うとますます表現の幅が広がりそうですね。それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!

仲井 邦佳



仲井 邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『はじめてのエスパニョール』(共著、三修社)、『中級スペイン語 一文法と演習一』(共著、同学社)などがある。

# はじめてのスペイン語講座

## 第9回 再帰動詞について



Hola. みなさん、こんにちは!

第9回目のスペイン語講座では、『再帰動詞』を紹介します。

『再帰動詞』って何でしょうか？ 名前だけからは、想像がしにくいですね。

では、例を上げて説明していきましょう。

動詞<Levantarse>には、『～を起こす』という意味がありますが、これに【自分自身】を表す再帰代名詞<se>をつけると、再帰動詞の原形<Levantarse>が出来上がります。

Levantarse + se = Levantarse  
 ~を起こす      自分自身      自分自身を起こす → 起きる

上記の様に、再帰代名詞<se>をつけることによって、アクションの対象が自分自身に向くため、『自分自身を起こす』という意味が転じて『起きる』となります。再帰動詞の活用は、以下の表の通りです。法則を覚えてしまえば簡単ですね。

### reng 覚えましょう!

#### 再帰動詞の活用形

	単 数	複 数
一人称	<b>me levanto</b>	<b>nos levantamos</b>
二人称	<b>te levantas</b>	<b>os levantáis</b>
三人称	<b>se levanta</b>	<b>se levantan</b>

※ <se> は主語に応じて、<me>、<te>、<se>、<nos>、<os> に変化します。  
 ※ <se> 以外の部分の活用は、<se> がついてないときと同じです。

## #1

① さて、上記を見れば、『再帰動詞がどういうものか?』、という疑問は解けたのではないのでしょうか? 再帰動詞の活用も出来るし、基本的な概念もわかりましたね。

では、もう少し『自分自身』にかえてくるアクションを表す、『再帰動詞』について見ていきましょう。

『再帰動詞』は、『自分の体の一部』だけに、アクションが及ぶ場合にも、用いられます。体の一部である手や顔を洗う時、服や、眼鏡、アクセサリ等を自分の身につけるときのなどがその一例です。

例えば、左の絵を見て下さい。マリさんが、ペットの犬を洗っています。洗うという動詞は<Lavar>ですから、

**Mari lava a su perro.** (マリは彼女の犬を洗う。) となります。  
主語      アクションの対象 (主語とは別のもの)

では、今度は右の絵です。ミキちゃんが自分の手を洗っているところです。再帰動詞は、自分の体の一部にアクションが及ぶ時にも使用されますので、

✕ Miki lava las manos. ではなく、再帰動詞を使って、  
 ○ **Miki se lava las manos.** (ミキは [彼女自身の] 手を洗う。)  
主語      アクションの対象 (主語の体の一部)

が正しい表現となります。

また、ここで気をつけなければならないのが、

**Miki se lava.** (ミキは [自分の] 体を洗う。)  
主語      アクションの対象 (主語自身)

だけでは、意味が変わってしまうので、必ず動詞の後に洗う部分 (この場合は手) を表す<las manos>を付けなければならないことです。



Mari lava a su perro.



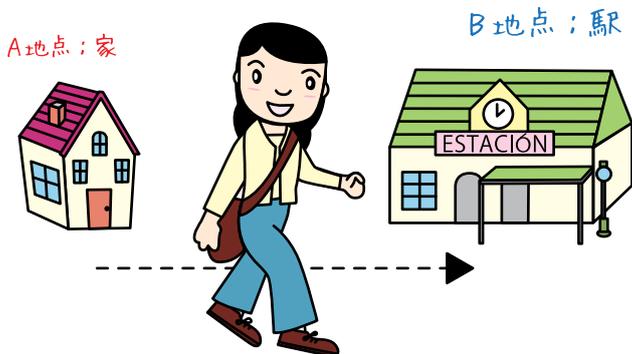
Miki se lava las manos.

② 左ページで紹介した種類の外にも、『再帰動詞』にはたくさんの種類があるため、様々な意味、用法が用いられますし、中には、<se>を付けることによって、<se>を付ける前の動詞から大きく意味が変わってしまうものもあります。

その中でも、日常会話で非常に良く使われる『再帰動詞』に<irse>があります。<ir>はご存知の通り、『行く』という意味の動詞ですので、左ページの考え方をなぞると、

<ir(行く)> + <se(自分自身)> = 自分自身を行かせる

となりますが、このままでは意味が通りませんよね。辞書を引いてみると、<irse>には、『行く』の他に『行ってしまふ』とか『帰る』という意味が出てきます。<ir>と似ているような違うような、ちょっとわかりにくい動詞です。ここでは、<ir>と<irse>の意味の違いについて、見ていきましょう。



<ir>は通常、目的地への移動を表すときに使われる。

動詞、<ir>は、一般的にある一点から、目的地に向かっての移動について述べるときに使います。例を見ながら説明しましょう。

左の絵を見て下さい。あきこさんがA地点の『家』から出発して、目的地であるB地点の『駅』まで移動中です。この場合は、<ir>を使い、

**Akiko va a la estación.** (あきこは駅に行きます。)

と言うのが適切ですね。強いて言えば、出発地点がどこであるかは関係なく、目的地がどこであるかが重要になります。

では、次に<irse>について見ていきましょう。<ir>が目的地への移動を表現するのに対し、<irse>は今いる場所から立ち去りどこかへ行ってしまふことを表します。

例えば、右の絵の例ですが、あきこさんは学校にいます。荷物をまとめてから、クラスメイトに、**"Ya me voy."** (私、もう行くね。) と言うところです。これは、『(今いる)学校から立ち去り、どこかに行ってしまう』ことだけを伝えており、目的地は不明です。家に帰るかもしれませんし、また全く異なる場所に向かうかもしれません。上の文章から確実にわかるのは、『学校から立ち去る』ということだけです。前後の流れでどのようにもとれますね。

では、次の文章を見て下さい。

**Akiko: ¿Son ya las doce? ¿Tengo que irme!**

あきこ: もう12時? 行かなくちゃ!

**Mari: ¿A dónde vas?**

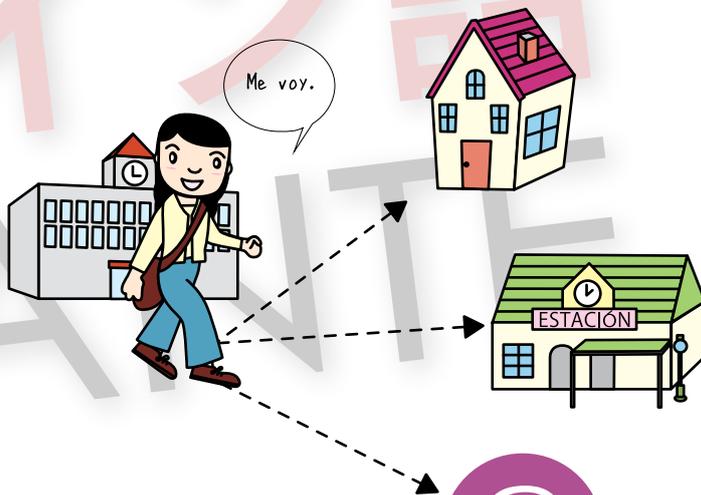
マリ: どこに行くの?

**Akiko: Voy al hospital. Tengo cita con el médico a las 12:30...**

あきこ: 病院。12時30分に予約しているの。

少し、使い方の差がはっきりしてきたでしょうか?最初の文では、<irse>を使い、『この場から立ち去る』ことを表しますが、2つ目の文では、『どこに行くのか?』と目的地を尋ねているので、<ir>を使っていますね。そして、この質問への答えもまた<ir>を使って目的地を表しています。

例外もありますが、まずは基本的な概念を理解し、使ってみましょう。まずはとにかく実践あるのみ!頑張ってくださいね!



<irse>は『どこに向かうのか?』よりも、『今いる場所からいなくなる』ことに重点をおいた表現

## un descanso....

実は、日常表現の中にも知らず知らずのうちに使っている『再帰動詞』が隠れています! まずは、誰もが絶対に使ったこと・聞いたことがある表現です。

**Yo me llamo** Carlos. 私の名前はカルロスです。

原形<llamarse> <llamar(呼ぶ)> + <se(自分自身)> = 自分自身を(〜)呼ぶ

自己紹介には必ず出てくる表現ですが、これも<llamarse>という『再帰動詞』を使った文章です。<llamar(呼ぶ)>が元になっており、『自分自身を〜と呼ぶ』が転じて、『名前は〜です』という表現として使用されています。

もう一つの例を紹介しましょう。

**¡Nos vemos!** またね!

原形<verse>

『私があなたに会う』 } この2つが同時に作用し、  
『あなたが私に会う』 } 『私たちが互いに会う』となる

これも<verse>という『再帰動詞』を使った表現です。『再帰動詞』には『互いに〜しあう』という相互用法も存在し、<verse>はこのカテゴリーに分類されます。この相互用法は、二つの物がお互いに作用し合うことを表しますので、主語が複数の場合にのみ使われます。<Nos vemos>の場合は上の様に『私たちが互いに会う』が転じて、『また会いましょう』という意味を持つ別れ際の挨拶として使われています。

相互用法の『再帰動詞』の例をも一つ上げておきましょう。

<escribirse> (お互いに便りを書きあう) = 『文通する』

何気なく聞いている言葉にも多くの発見が潜んでいるかもしれませんね!



- ・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分! 自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE  
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F  
TEL: 06-6346-5554 • FAX: 06-6110-5122  
E-mail: info@adelante.jp • http://www.adelante.jp

ピアベレスのバルのハモンのクロケッタ。  
素材の良さが際立つ。



## マドリード食事情・その2

# 「新たな展開を模索して」

食文化に関してはフランスやイタリアの後塵を拝するという長年の位置関係から、「エル・ブジ」の唯一無二の独創性を旗印として一躍世界の料理界のトップへと躍り出たスペイン。その価値がなくなってしまったわけではないが、ヨーロッパ広域にわたる深刻な不景気と、政党が交代してもなお混迷の時期を続けるスペイン政府という時の流れは、無情にも「スペイン料理界の黄金時代」の寿命を縮めてしまったようだ。

一旦は飛躍的なまでに増えた新しいタイプの高級レストランの相次ぐ脱落が、その事態を如実に物語っている。スペインに「黄金時代」を招いてくれた本人である「エル・ブジ」のオーナーシェフ、フェラン・アドリア自身が誰よりも早くからそのことを認識していて、だからこそ彼はレストランとしての「エル・ブジ」の扉を去年で閉め、財団法人のオーガナイズ、後進の指導、純粋な研究活動などへと方向を変えて、新たな活動を展開し始めている。

そういう形でも自分の能力を表現できる多才なフェランはいいとして、新しい料理を広めようとレストランを改革してきた若い人々、フェランに続こうと努力してきた若い料理人たちは、これから何を目指していけばいいのか?そして何より、この不況のなかで食産業が生き残る道はどこにあるのか?

2012年1月のマドリード・フションは、この国際会議としては今までにないほど質素な構えで行われたが、ほとんどの論題が「sobrevivir hoy 今の時代に生き残る」という共通のテーマを土台として選ばれていることを痛感させた。

では、具体的に生き残る術とは何か?せっかく新しい地平線を切り開いたスペインのガストロノミーを後退させることなく、不景気のなかでも人気を維持していくことができるのは、どんなレストランなのか?

12月のマドリードで私が見つけたのは、もしかしたらその答えの一部となるかもしれない「expansión 拡大」というひとつのキーワードだった。



ピアベレスのバルは、きちんとした手作りのデザートもある、これはトリッハ。

まずひとつめは「地域性の拡大」。料理の無国籍化と呼んでもいいのだが、スペインの場合、この国籍とは各地方のことを指す。つまり、スペイン内の様々な地方料理を孤立させずにいいところを集めて提供することで、新しい嗜好を身に付け始めた顧客の要望に応えようというものである。

たとえば、一皿目にはカタルニア風のラビオリ。二皿目には内陸部ならではの仔豚のロースト。デザートにはガリシア風のクレープ。こん

なメニューが、会社や高級オフィスビルの多い地域のレストランで人気を呼んでいる。あるいはバスク料理をメインに据えながら、カタルニア料理やイタリア風のパスタも平気でメニューに載せるレストランが、珍しくなくなってきた。遅まきながら「料理の国境」を取り去ろうという試みが、若い層を中心としてレストラン業界に新しい可能性を生み出していると言っていい。



郊外のレストラン「カサ・ピコン」のある日のメニュー。

左から、弾けるチョコレートをあしらったラビオリ。低温加熱したコチニージョ。ガリシア風フィジョア。色々な地方の料理のいいところだけをピックアップしている。



サン・ミゲル市場の鮮魚店。生食を前提にしたマグロも売っている。



都心のデパート内のイートイン。日本人でも納得の味のスシランチ。

付け加えるなら、文字通り外国の料理を取り入れる動きも進行している。そのひとつである日本料理のスペインでの浸透ぶりは特筆していいもののひとつだろう。

単に日本料理のレストランの数が飛躍的に増えたというだけではない。バルセロナのような開けた視点を持つ都会を降り出しに、マドリドでもスーパーマーケットのなかには「寿司」のテイクアウトが販売され、鮮魚店で「サシミ」や「スシ」を意識して魚を販売する店も登場し始めている。つまり、レストランのなかだけでなく、スペイン人の家庭の食卓にも、なんらかの形で日本食の一部が登場し始めているのである。元々魚類を食べる食習慣を持ち豊かな漁場を抱えるスペインで、鮮魚をよりおいしく食べることに焦点を当てる日本の食が徐々に認められてきたことは、勿論そのなかにもさまざまな問題を内包しているにしても、我々日本人にとってまずは嬉しい現象と言っていいのではないかと思う。



骨髓の煮込み。ガストロバルならではの凝った料理。

写真下:

1. ビアベレスの外観。  
1階がバル、地階がレストランになっている。
2. バルの店内。  
モダンだが明るくて親しみがある。  
椅子の座り心地もいい。
3. ビアベレスのメニュー。  
必ずいくつかはレストラン寄りの料理がある。



1



3



2

もうひとつは、「価格の拡大」。2009年ごろから言われ始めた「gastrobar (美食バル)」への展開である。現在のスペインには、外国からお客を呼べるほどのレベルのシェフが数十人、あるいはそれ以上存在する。しかし彼らのレストランは予約で混んでいたり、価格も相当に高かったり、あまりにエレガントだったりして庶民には敷居が高い。そこで、彼らトップシェフたちが昨今のバル・ブームに便乗した形で、自分の料理を気軽に食べてもらうためのバルを開くようになってきたのである。

マドリードではパコ・ロンセロ。セルジ・アロラ。パコ・ロン。バルセロナではカルロス・アベジャン。アルベルト・アドリア。リオハではフランシス・パニエゴなどが、自らの高級レストランと並行して、手軽に料理を味わうことのできるバルを開き、いずれも人気を呼んでいる。

マドリードにおけるアストゥリアス料理の第一人者であるパコ・ロンは、彼のレストラン「ビアベレス」に併設した「タベルナ・デ・ビアベレス」で語ってくれた。

「私の料理は、どんなに洗練されても根っこはアストゥリアスの田舎料理だよ。でも素材にこだわり調理にこだわり、食器や雰囲気にもこだわればレストランはどうしても高価になってしまう。だから、私の料理をもう少し気軽に食べてもらえて、それが同時に不景気を乗り切る助けにもなるなら、一石二鳥だね。実際バルは、とても流行っている。」彼のバルは「タベルナ」と命名されていることからわかるように食べることに重点をおき、それでいて気軽に食前酒を飲むためだけに入ってもいい雰囲気をも備えている。そして、タバスの体裁になっはいても、シェフの名前に恥じないレベルのきちんとした料理が手の届く価格で食べられる。

「地元の人が集まる地域のバル」が少しだけおしゃれになったような場所で、スペインで「伝統的」と呼ばれる荒っぽさや飾り気のなさとは一味違う洗練された形で、有名シェフのプロデュースした料理が味わえる…。これもまた、21世紀のスペインが模索しつつある食の現場の新しい方向のひとつとして、期待してもいい提案かもしれない。

文・写真 渡辺万里



渡辺 万里

わたなべまり / Mari Watanabe

学習院大学法学部政治学科卒。

1975年よりスペインで食文化史の研究に取り組むと同時に、スペイン料理界最前線の取材に従事する。

1989年、東京・目白に『スペイン料理文化アカデミー』を開設。さらに各地での講演、執筆などを通してスペイン文化の紹介に携わっている。

早稲田大学文化構想学部非常勤講師。

著書に「エル・ブジ究極のレシピ集」(日本文芸社)、「修道院のうずら料理」(現代書館)、「スペインの籠から」(現代書館)など。

スペイン料理文化アカデミー <http://academia-spain.com>

〒171-0031 東京都豊島区目白4-23-2 TEL : 03-3953-8414

スペイン料理クラス、スペインワインを楽しむ会、フラメンコ・ギタークラスなど開催



アンダルシアの邸宅をイメージした空間で、  
カジュアルに楽しめる本格スパニッシュ。  
「西梅田」「北新地」徒歩1分全120席、  
2～37名対応の個室完備。



ÚNICO 西梅田  
Maison de Andalucía

「スペイン情報誌acueductoを見た」と言って頂いた方には、  
一組様全員に1ドリンクサービス!

## Wine

ワインを美味しく飲んでいただくため、ワインの品種やキャラクターに応じてグラスを厳選。

また、伝統料理から現代的なものまで取り揃えた本格スパニッシュとオーナーソムリエ安田がプロデュースするワインとのマリアージュを日々提案しています。



## Food

ミシュラン星付きレストラン出身のシェフを筆頭に、スペイン人の料理人が3名在籍。地方ごとの伝統料理をカジュアルにお楽しみいただけます。



## Private Room

100名様着席可能な大ホールに加えて、2～37名程度まで対応の個室を5室ご用意しております。

記念日・お誕生日会・歓迎会・食事会など様々なシーンでお使い下さい。



ÚNICO 西梅田  
Maison de Andalucía

Único 西梅田

[TEL] 06-6344-6110

ランチ/11:30~14:00 (L.O. 13:30)

ディナー/18:30~23:00 (L.O. 22:30)

[住所] 大阪市北区曾根崎新地2-3-21

東急axビル2F

[URL] <http://www.bnw.co.jp/restaurant/unico>



2012年初夏はスペイン映画を観に行こう!

## スペイン映画情報

2012年の5月から6月にかけて、話題の新作スペイン映画2作品がついに日本に上陸します!

まずひとつめは、日本でも根強いファンの多い、ペドロ・アルモドバル監督の待望の最新作『私が、生きる肌』(原題:La piel que habito)。続いて公開予定の作品が、“スペインのデヴィッド・リンチ”と称される鬼才アグスティー・ビジャロンガ監督の『ブラック・ブレッド』(原題:Pa Negro)。

また、今年にはスペイン人監督、『ホセ・ルイス・ゲリン映画祭』も開催予定。渋谷イメージフォーラムシアターで6月30日から開催されるのを皮切りに、全国で順次公開されます。

是非この機会に、映画館に足を運んで、スペイン映画の世界に浸ってみてはいかがでしょうか?

ペドロ・アルモドバル監督最新作

## 『私が、生きる肌』

2010年に日本公開された、『抱擁のかけら』から2年、待望のペドロ・アルモドバル監督最新作が5月26日から公開されています。

『私が、生きる肌』に主演するのは、スペインを代表する国際的スター、アントニオ・バンデラス。アルモドバル監督とタッグを組むのは、1989年の作品『アタメ』以来、実に22年ぶりであることも、大きな話題となりました。

12年前に最愛の妻を亡くした天才的な形成外科医、ロベル・レガル役を演じるアントニオ・バンデラスは、従来の情熱的なラテン男性のイメージを封印し、ポーカークフェイスの裏に激しい感情を秘める異色の役柄で観客を圧倒しています。ロベルが彼の邸宅の一室に監禁している、謎の美女ベラ・クルスを演じるのは、『この愛のために撃て』のエレナ・アナヤ。また、多くのアルモドバル作品に出演し、『オール・アバウト・マイ・マザー』で大女優ウマを演じ、観客に強烈な印象を残したマリサ・パレデスも、母親役で出演しています。

撮影や音楽は、アルモドバル作品の常連スタッフが集結し、ジャン・ポール・ゴルチェが衣装を手がけました。美しい映像と音楽、卓越した脚本が融合した、アルモドバル・ワールド全開の狂気と愛の物語。



Photo by José Haro © El Deseo



Photo by José Haro © El Deseo

## HISTORIA ストーリー

スペインのトレド郊外に建つ広大な邸宅に住む天才的な形成外科医、ロベル・レガル。彼は、12年前に最愛の妻、ガラを失って以来、最愛の妻を救うことができたかもしれない“完璧な肌”を求め、最先端のバイオ・テクノロジーを駆使した人工皮膚の開発に心血を注いできた。

妻の死以来、良心を捨ててしまったロベルは、“ガラ”と名付けた開発中の人工皮膚を、自宅に監禁した“ある人物”に移植し、亡くなった妻に瓜二つの女性、ベラ・クルスを自分自身の手で創り出すことに、没頭していく。

邸宅に監禁されているベラという女性は一体誰なのか。ロベルはどのようにして彼女と出会ったのか。二人を取り巻く謎は深まるばかり。

そんなある日、邸宅に奇妙な客が訪れたことから、思わぬ事件が起こってしまう。

過去と現在を行き来しながら、謎が少しずつ解き明かされていくサスペンスストーリーと、狂気をまとった天才外科医の愛の物語が交錯する問題作。



Photo by José Haro © El Deseo

## 映画情報

### 『私の、生きる肌』

監督：ペドロ・アルモドバル

出演：アントニオ・バンデラス、エレナ・アナヤ、マリサ・パレデス

制作：2011年、スペイン

配給：ブロードメディア・スタジオ

公式HP：<http://www.theskinlivein-movie.jp/>

5月26日(土)TOHOシネマズシャンテ、シネマライズ他  
全国ロードショー

## 2011年度ゴヤ賞、最多9部門獲得の話題作

## 『ブラック・ブレット』

日本ではまだ珍しい、カタルーニャ語の映画『ブラック・ブレット』。この作品は、2012年アカデミー賞外国語部門スペイン代表にカタルーニャ語作品として初めて選ばれるという快挙を成し遂げました。

また、2011年にはスペインのアカデミー賞とも言われるゴヤ賞で、作品賞を初めとする最多9部門を受賞するなど、非常に高い評価を受けた話題作が、6月23日いよいよ日本でも公開されます。

舞台は、スペイン内戦直後、1940年代のカタルーニャ地方の小さな村。まだあどけない年齢の少年が、ふとしたことから殺された親子の遺体を発見したことがきっかけで、周囲の大人たちが生きるためにひた隠しにしてきた秘密を知り、恐ろしい決断を迫られるというストーリー。カタルーニャの鬱蒼とした森の中を裸で駆け抜ける美しい青年や、謎の怪物ピトルリウア、大人びた言動の従姉妹の存在、そして殺人容疑をかけられた父など、ファンタジーとドラマの要素が絡み合った、ダークミステリーです。

監督は“スペインのデヴィッド・リンチ”の異名をとる、アグスティー・ビジャロンガ。また、この作品で特筆すべきは、アンドレウ役を演じた主演男優、フランセスク・クルメは本作が映画初出演ながら、その演技でゴヤ賞の新人男優賞を受賞したことです。スペイン内戦をテーマに、人の心の闇に迫る作品。



© Massa d'Or Production Cinematografiques i Audiovisuals,

## 映画情報

## 『ブラック・ブレット』

脚本・監督:アグスティー・ビジャロンガ

原作:エミリ・タシドール(「Pa Nègre」)

出演:フランセスク・クルメ、マリナ・コマス、ノラ・ナバス

制作:2011年、スペイン・フランス

配給:アルシネテラン

公式HP:<http://www.alcine-terran.com/blackbread/>

6月23日(土)、銀座テアトルシネマ、ヒューマントラストシネマ渋谷他、全国順次ロードショー

## José Luis Guerin Film Festival

## ホセ・ルイス・ゲリン映画祭

スペイン、バルセロナ生まれのホセ・ルイス・ゲリン監督の作品を一挙に8作品上映する、『ホセ・ルイス・ゲリン映画祭』が、6月30日から4週間の間、渋谷イメージフォーラムシアターで開催が決定しました。

海外では「ピクトル・エリセ監督の後継者」などとも呼ばれているゲリン監督。日本では、2年前に『シルビアのいる街で』が上映され、日本の映画ファンにもその名が知られるところとなりました。

今回の映画祭にあわせてゲリン監督の来日が予定されており、映画祭の前日である6月29日(金)には、セルバンテス文化センター東京で試写会とパーティーが開催されます。映画祭の初日～3日目(6/30, 7/1, 7/2)には、映画上映終了後にゲリン監督自身による30分程度の解説トークが企画されています!(詳細はホームページご覧下さい。)

また、関西地方でも、7月3日(火)には、「一日限りの先行上映」と題して、京都・同志社大学ホールにて、2作品の上映と監督トークショーが予定されているほか、大阪、京都、神戸の劇場でも順次作品の上映が行われるようです。(日程は未定。)

## 【上映予定作品】

『ベルタのモチーフ』(1983) \* 幻の処女作 アリエル・ドンパール出演

『イニスフリー』"Innisfree"(1990)

『影の列車』"Tren de Sombras"(1997)

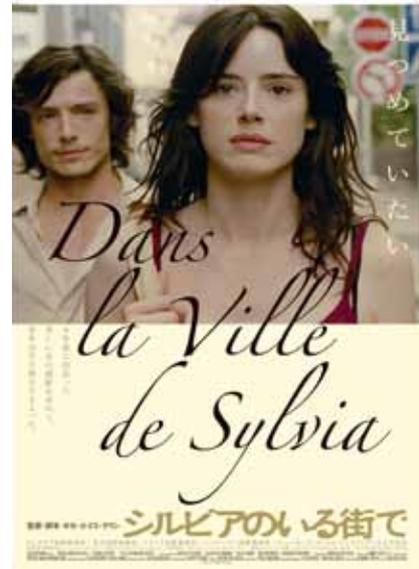
『工事中』"En Construcción"(2001)

『シルビアのいる街での写真』"Unas fotos en la ciudad de Sylvia"(2007)

『シルビアのいる街で』"En la Ciudad de Sylvia"(2008)

『ゲスト』"Guest"(2009)

『メカス×ゲリン 往復書簡』"Correspondencia Jonas Mekas - J.L. Guerin" (2011)



## INFORMACIÓN

ホセ・ルイス・ゲリン映画祭

公式HP: <http://www.eiganokuni.com/jlg/>

配給:マーメイドフィルム

宣伝:VALERIA

配給協力:(社)コミュニティシネマセンター

後援:セルバンテス文化センター

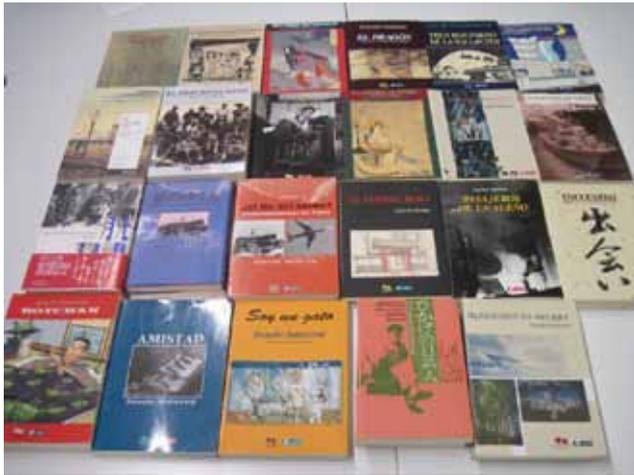
# DONACIÓN DE LIBROS DE MONTSE WATKINS

モンセ・ワトキンスの書籍を寄贈

**M**ontse Watkins nació en Barcelona en 1955. En el año 1985 llegó a Japón, atraída por su cultura y las películas de Ozu Yasujiro, con el objetivo de vivir el Japón tradicional y aprender la lengua. Tras unos años de estudio empezó a trabajar como corresponsal en Tokio de la agencia de noticias EFE y del periódico AVUI, de Barcelona. En 1994 fundó la editorial Luna Books con el objetivo de difundir la literatura japonesa entre los hispanohablantes. Entre los autores publicados por Luna Books tenemos los clásicos más famosos: Miyazawa Kenji, Natsume Soseki, Akutagawa Ryunosuke, Dazai Osamu, Mori Ogai, Koizumi Yakumo, etc...

Como investigadora realizó numerosos estudios sobre el fenómeno de la inmigración de los latinoamericanos en Japón. Como escritora también publicó relatos sobre Japón.

Hasta su fallecimiento, a causa de una enfermedad terminal que le dio el coraje y la valentía de realizar su sueño hasta el último momento, Montse Watkins logró publicar más de 20 libros en el tiempo récord de seis años.



写真上: Postal conmemorativa del décimo aniversario del fallecimiento de Montse Watkins. (モンセ・ワトキンス10周年忌に作成されたカード)

写真左下: Libros publicados por Montse Watkins durante sus últimos seis años de vida. (没するまでの6年間にモンセが執筆・翻訳した書籍の数々)

モンセ・ワトキンスは1955年にバルセロナで生まれました。日本文化と小津安二郎の映画に魅せられて1985年に来日。日本語を学び、伝統ある国日本に住んでみるのが目的でした。日本語を数年間学んだ後、スペイン通信社EFEで記者として働くようになり、バルセロナの日刊紙AVUIにも記事を送っていました。1994年にはスペイン語圏の人々に日本文学を知ってもらおうと、出版社ルナ・ブックスを創立。ルナ・ブックスが取りあげた作家には、宮沢賢治や夏目漱石、芥川龍之介、太宰治、森鴎外、小泉八雲など、最も有名な古典作家が名前を連ねています。

また日本におけるラテンアメリカ人移民問題に関して、研究者としてさまざまな調査を行いました。同時に作家として、日本を舞台にした物語も出版しました。

病気で亡くなる最期のときまで、夢を叶えようと気力をふりしぼり果敢に翻訳に取り組み、6年間に20冊以上という記録的な数の書籍を出版しました。

✂ キリトリ線

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アケドクト]  
**acueducto** 定期購読申込書  
 La revista española en Japón

スペイン情報誌acueductoの定期購読は、ファックス、郵送、E-mailでお申し込みいただけます。以下のフォームに記入し、ファックスまたは郵送でご送付いただくか、必要項目をメールでご送付ください。

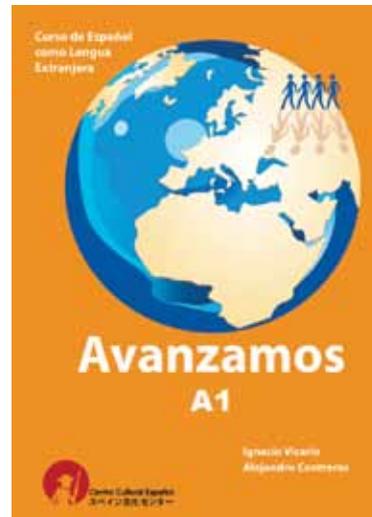
氏名 \_\_\_\_\_ 必要部数 \_\_\_\_\_ 部

電話番号 ( ) \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

お申込先

- ① 郵送の場合 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F 有) ADELANTE
- ② ファックスの場合 06-6346-5554
- ③ E-mailの場合 info@acueducto.jp



日本のスペイン語学習の現状を考慮した  
 新しいスペイン語テキスト☆オールカラーCD付!  
**1,890円(税込)**

El pasado 24 de marzo en la Biblioteca del Instituto Cervantes de Tokio tuvo lugar una presentación de su vida y obra a cargo de sus colaboradoras más estrechas, las profesoras y traductoras Mitsuko Ido y Elena Gallego. Intervino también el Sr. Ota Masakuni, director de la editorial Gendaikikakushitsu de Tokio, que acogió la colección Luna Books. A continuación se procedió al acto de donación de su obra: dos ejemplares de cada libro, uno para préstamo y otro para el fondo de la Biblioteca, con el objetivo de poner a disposición del público y difundir así el gran legado cultural que nos dejó. Entre todos, amigos, colaboradores y el público asistente, recordamos a esta gran mujer que amó Japón profundamente y dedicó los años que vivió en este país a trabajar como puente de unión entre ambas culturas.

Y ahora, gracias a Satori Ediciones de Gijón (España), podemos disfrutar de las traducciones de Montse de Shimazaki Toson "El precepto roto" y Miyazawa Kenji "Tren nocturno de la Vía Láctea".

Agradecemos al director del Instituto Cervantes, Sr. D. Víctor Ugarte, y al director de su Biblioteca, Sr. D. Manuel Pérez, la organización de este entrañable acto In Memoriam de Montse Watkins y la acogida de su legado.

Elena Gallego Andrada  
Tokio, 26 de marzo de 2012

去る3月24日、セルバンテス文化センター東京の図書館で、モンセ・ワトキンスの生涯とその作品について語る会が催されました。呼びかけ人は、もっとも緊密にモンセと協力関係にあった翻訳者、井戸光子と上智大学准教授エレナ・ガジェゴ。またルナ・ブックスをコレクションとして発行することを引き受けた出版社、現代企画室ディレクター、太田昌国氏も出席しました。続いて書籍の寄贈が行われ、各著書につき2冊ずつ(ひとつは貸し出し用に、もうひとつは書庫での保管用に)贈られました。モンセが私たちに残してくれたかけがえのない文化遺産が、多くの人々に読まれ、知られることになるでしょう。会に参加した友人や協力者すべての人々が、日本を深く愛し、この国で生きた年月のすべてを日本とスペインの架け橋になろうと捧げたモンセ・ワトキンスに、想いを寄せる会になりました。

スペインのヒホンにある出版社Satoriから、モンセ訳の『破戒』(島崎藤村著)、『銀河鉄道の夜』(宮沢賢治著)が出版され、私たちはモンセの訳をスペインで読むことができます。

モンセ・ワトキンスの書籍を受け入れてくださり、心温まる偲ぶ会を開催して下さったセルバンテス文化センター東京館長のビクトル・ウガルテ氏、ならびに同図書館長のマヌエル・ペレス氏に心からお礼を申し上げます。

エレナ・ガジェゴ・アンドラダ  
2012年3月26日  
(翻訳 井戸光子)



写真上下: Momentos del acto de donación de los libros el pasado 24 de marzo.  
(3月24日に行われた書籍寄贈と偲ぶ会のようす)



写真提供: Elena Gallego Andrada



Elena Gallego Andrada  
エレナ・ガジェゴ・アンドラダ

Burgos, 1967

Doctora por la Universidad de Sevilla (2002).

Reside en Japón desde hace 20 años y es profesora titular del Departamento de Estudios Hispánicos de la Universidad Sofía.

Estudió Literatura Japonesa en la Universidad de Kioto y ha traducido obras de Mushanokooji Saneatsu, Mori Ogai, Miyazawa Kenji y otros autores.

1967年 ブルゴス生まれ。

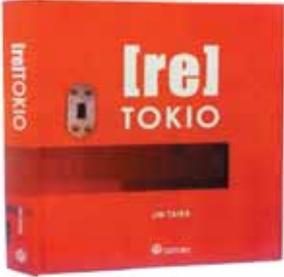
2002年 セビージャ大学博士課程修了。

20年前に来日し、現在は、上智大学イスパニア語学科准教授。

京都大学で日本文学を学び、武者小路実篤、森鷗外、宮沢賢治、その他多数の作品を翻訳している。

# 日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリッドにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、日西商業会議所発行『スペイン広報』と記事の一部をご紹介します。



## 【新刊】東京の[再]定義

**東**京の[再]定義は、世界で最も不思議な都市の1つを、読者が探究する事を目的としている。その研究は、変化の大きな渦のなかを航海し、その誕生、成長、現況、そして予知される突然の変異まで、33章にわたってその要点を解明していく。

マルコ・ポーロ（13世紀）の『東方見聞録』、ローランド・バルトの『表徴の帝国』（1970）等、多くの人たちがジパングに魅入られた。オリエンタリズムは絵画、彫刻、詩、哲学、建築等のインスピレーションの源だ。しかし、その都市構造の本質は西洋人にとってまだ大きな未知であり続けている。

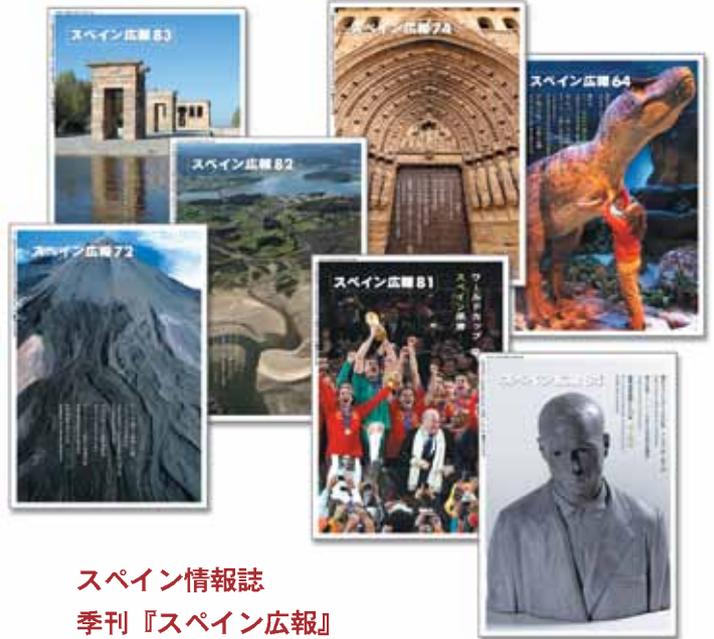
東京は世界の偉大な首都の1つでありながら不可解性を保ち続け、1億2千万住民の一見混乱状態に未知の根源を形成している。それは、はじめて観察すると日本の表意文字（漢字）のように、理解が不可能のように感ぜられる。

東京の[再]定義は、3000年前に書かれた[易経]と題する本を提示し、選択、分析、そして都市の本質を体系化して、400年を経た一都市の根源が、紀元前3322年の中国にあるという発見を試みた論文だ。これら全ては単に前例がない切り口で西洋から東洋を発見するのみでなく、都市創造の遊戯的規約による地域的な戦略システムを表示している。

ジン タイラ  
建築工学博士  
ラス・パルマス・デ・グラン・カナリア大学  
建築学部 都市・テリトリー・芸術学科助教授  
訳：平 哉

著者: Jin Taira

出版社: Satori / 397ページ  
[www.satoriediciones.com](http://www.satoriediciones.com)



## スペイン情報誌 季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

[www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5](http://www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5)



## 【新刊】フランコと大日本帝国 日本語版発売

**1939**年内戦に勝利したフランコ政権は熱烈な日本賛美の念を表明する。しかしその6年後、太平洋戦争の最終局面では対日宣戦布告寸前にいた。この時期、フランコ統治下のスペインと帝国日本の間に一体なにがあったのか？

スペイン政府の協力のもとに構築された日本の対アメリカ諜報網の全貌、中国大陸やフィリピンにおける日西両国の利害の錯綜など、虚々実々の国際政治の暗部を明るみにさらし、第二次世界大戦下、日本とスペインの知られざる外交交渉史を発掘する。

同書は、すでにスペイン語で出版されている『Franco y el imperio japonés』の日本語版。著者のフロレンティーノ・ロダオ氏は、現在、マドリッド、コンプルテンセ大学情報学部教授で、日本をはじめとして、アジアの歴史に造詣が深い。著書に『シャムにおけるスペイン人』、『極東のイベリア』、『スペインと太平洋』他。日本とアジアの歴史や現況について新聞、雑誌での論評も多い。



著者: フロレンティーノ・ロダオ  
出版社: 晶文社 / 536ページ / 5775円  
[www.shobunsha.co.jp](http://www.shobunsha.co.jp)



お問い合わせ先

日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa  
[www.camarajaponesa.es/jpn](http://www.camarajaponesa.es/jpn)

camara@camarajaponesa.es

Tel: (+34) 91 594 3114

Apartado 10124 - 28080 MADRID - SPAIN



# HANAMI MÁS ALLÁ DEL JAPÓN: EL REGALO ORIENTAL DEL VALLE DEL JERTE



Valle del Jerteは、渡リヅルがその美しさに見とれて運んでいた食料を落としたと伝わる場所です。実は、日本から遠く離れたこの地にも桜があり、昔から人々は花見を楽しんできました。ところ変わっても“花見”はやはり同じであるようです。近代化の進んだヘルテの街に残る大自然の中での花見、訪れてみてはいかがでしょうか。

Hace poco tiempo me contaron, durante una breve visita al Valle del Jerte, que una pequeña grulla que se despistó durante su primera ruta migratoria llegó hasta el norte extremeño desde el Lejano Oriente. En su pico guardaba unas pocas cerezas que había atesorado por si le llegaba a faltar el alimento. Al parecer, cuando la grulla volaba sobre el Valle y contemplaba lo hermoso de éste, abrió su pico asombrada y, descuidando las guindas que allí tenía, cayeron todas a tierra. Dicen que la grulla permaneció sola hasta el fin de sus días, pero feliz y recordando Japón en los cerezos que habían crecido en ese lugar, fuertes y bellos.

En párrafo aparte -y para que el lector haya tenido tiempo de disfrutar de esta tierna historia- diré ahora que otro buen jerteño, buen conocedor de esta tierra, me confesó que esa historia es bastante reciente, apenas si tendrá veinte o treinta años, y que, tal vez, se ha puesto de moda entre los habitantes por la cada vez mayor pujanza del turismo japonés en dicha zona. Siendo pragmáticos, a fin de cuentas, tampoco está mal que de algo tan conveniente como es el turismo haya surgido de la tradición oral vernácula una historia en la que se unen éstas y aquéllas tierras.

De lo que no hay duda es de que, como decía, cada año son más los japoneses que llegan hasta Cabezueta, Navaconcejo o Tornavacas para disfrutar del hermoso espectáculo del hanami extremeño a finales de cada marzo. En efecto, al igual que sucede en Japón, también aquí existe esta costumbre. Todos los que hemos crecido en la provincia de Cáceres recordamos con cariño las excursiones de fin de semana con nuestras familias para ver la floración y la caída de las flores de cerezo en el Valle, aun cuando nada sabíamos de esta idéntica práctica en el lejano Imperio del Sol Naciente.

Ahora, unos años después, me doy cuenta de que el fin es el mismo en ambos lugares: pasar un tranquilo día en familia, comer juntos, jugar hasta caer rendidos los más pequeños mientras los mayores conversan despreocupados... Todo al amparo de un paraje

sin igual y arropados por las lentas cascadas de hojas rosadas que, en ocasiones, se cuelan sobre el mantel o en nuestros platos.

Con el paso del tiempo la zona ha sabido prosperar y adecuarse a las nuevas necesidades. Las infraestructuras han mejorado notablemente, se han multiplicado las casas rurales y la oferta gastronómica, potenciándose los productos típicos, tales como la trucha común, la castaña, la miel y la omnipresente picota.

El turista japonés encontrará, igualmente, aspectos muy del gusto de su cultura, como el recoleto hotel-balneario “Valle del Jerte”, en donde el huésped podrá gozar de la calma en un entorno sin par, rodeado de castañares, encinas o quejigos.

La invitación ya está hecha, ahora sólo falta que vengan aquí y disfruten. ¡Bienvenidos al Valle!

Fernando Cid Lucas



Fernando Cid Lucas  
フェルナンド・シッド・ルカス

Cáceres, 1979.

Es investigador y secretario del Grupo de Investigación Reconocido de la Universidad de Valladolid sobre la Recepción del Imaginario Japonés en la Literatura Inglesa y Francesa de Viajes del Siglo XIX y, asimismo, miembro de la Asociación Española de Orientalistas de la Universidad Autónoma de Madrid.

カセレス出身。1979年生まれ。

バジャドリッド大学にて19世紀の英国・フランスの紀行文における日本のイメージの受容についての調査グループの調査員をつとめている。また、マドリッド自治大学のスペイン東洋学協会のメンバーでもある。

Para saber más:

Flores Del Manzano, F. (1993): Andar por el Valle del Jerte, Madrid, Penthalon.

<http://www.vallecereza.com>

日本でも大人気の  
スペインサッカー公式グッズ登場

スペインサッカーチーム オフィシャルニットマフラー  
価格 各 ¥2,730 - (税込) 【サイズ】140 X 20 cm



1. F.C. バルセロナ  
オフィシャル  
ニットマフラーA

2. F.C. バルセロナ  
オフィシャル  
ニットマフラーB



3. F.C. バルセロナ  
オフィシャル  
ニットマフラーC

4. F.C. バルセロナ  
オフィシャル  
ニットマフラーD



4. レアル・マドリード  
オフィシャル  
ニットマフラーA

スペインのシンボルでもある牛を、  
カラフルでポップなモチーフにした  
TOROエプロン (大人用)



1. TORO エプロン A  
¥2,730 - (税込)

2. TORO エプロン B  
¥2,730 - (税込)



スペインの代表料理のひとつ、  
「パエリア」。  
専用のパエリア鍋で、  
ご家庭でもお楽しみ  
ください♪



1. 鉄製パエリア鍋 28cm  
2人用 ¥2,940 - (税込)
2. 鉄製パエリア鍋 32cm  
4人用 ¥3,720 - (税込)
3. 鉄製パエリア鍋 36cm  
6人用 ¥4,620 - (税込)

スペイン語で気持ちを伝えてみませんか?

リボン付きミニメッセージカード (封筒付) 5種類 各 ¥300 - (税込)

【サイズ】8.7 X 12.6 cm



1 "Te quiero" (愛してる)



2 "Feliz día" (おめでとう  
~お祝いの日に~)



3 "Felicidades" (おめでとう)



4 "Feliz cumpleaños"  
(お誕生日おめでとう)



5 "Enhorabuena"  
(おめでとう・良かったね)

お問合せ・ご注文は以下までお願いいたします:

有限会社 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F

TEL:06-6346-5554 FAX: 06-6110-5122 Email: info@adelanteshop.jp

# マドリッドの夜(9)

「カーサルシオ」というレストランは正にマドリッドの下町にある。現国王ファン・カルロス1世も時々やってくる老舗中の老舗である。レストランの前でタクシーから降りると、何とこのレストランに入るための長蛇の列である。仕方なく私も最後尾に並び順番を待つ。やっと私の順番になり「ヘスス・ソングエーバの名前で予約してあるはずですが・・・」という、即座に「承っております。さあ、こちらへ」と案内された。予約は入っているがやはりまだヘススは来ていない。もう10時である。私は彼からもらっている電話番号に自分の携帯電話から電話をしてみたが誰も出ない。この番号は明らかにヘススの自宅の番号である。私がティオ・ペペをチビリチビリとやっている、そのうちボーイがやってきて「セニョール・ソングエーバはもうすぐ来られるそうです。何でも注文しておいて下さいとの伝言です」と言った。やっと彼のコミュニケーションが取れた。一体彼は今どこにいるのか?7時半には落ち合えと言ったのはどこであったのか?疑問符が次々出てくるが、ここはスペイン。小さなことは考えず、夜の時間は十分にある、お酒を飲みながらゆっくりと待つしかない。

終にヘスス夫妻が現れた!9年ぶりの再会である。夫妻と抱擁し再会を祝しあった。会ったとたんに彼は「何も言わない。何も言わない」と私の言い訳を制した。彼の目は「いろいろ行き違いがあったようだが、お互い再会の喜びを優先しよう」と語っていた。さっそくリオーハで乾杯。何でも注文してくれというヘススの言葉にしたがい、私はハモン・イベリコのハブーゴをまず注文した。ハブーゴを置いてある店はなかなかない。そしてメインはアンダルシア料理で一番好きな「牛の尻尾の煮込み」を選んだ。どれもパーフェクトに美味であった。完璧であった。牛の尻尾もこれまで食べた中では最高の部類であろう。時間前から長蛇の列ができる理由も頷ける。

友情溢れる会食に満足した私はヘススの運転する車でホテルまで送ってもらった(彼も赤ワインを飲んだはずだが?)。最後まで夫妻は今日の行き違いについては触れなかった。このあたりがキップのよいスペイン人のよいところである。実態は彼らもラッシュアワーに巻き込まれ、ホテルには8時を過ぎて着いたようだ。どこに出かけたか分からない私を彼らは混雑したホテルのロビーで待つしかなかった。受付嬢に聞いても何も親切なことはしてくれない。(大きなホテルであればすぐに部屋にメッセージを入れてくれるはずである)待てど暮らせど日本人の行方は杳として知れない。2時間ほど経ったころレストランに電話してみてやっと私の存在場所が分かったという次第であった。

この夜は美味しい料理と最高のワインとそして今日の複雑な出来事でなかなか寝付けられない。そこで久しぶりでカジノに遊びに行くことにした。まだ1時前である。タクシーを飛ばしマドリッドから29キロ北にあるCasino de Madridに着いた。前回とは様子が少し違っていた。以前はフレンチ・スタイルのルーレットが占めていた左側のフロアが全てアメリカン・スタイルとなっている。いよいよ出陣である。以前この連載にも書いた「カジノ必勝10カ条」を復唱した。そして私の好きなアメリカン・スタイルのルーレットに向った。

これまでゼロが出ていない台を選んで場所をとった。まず500ユーロを5ユーロのチップに換える。暫く勝ったり負けたりが続き、感触はよいのだが結局手許のチップを全部賭けたところでドボンとなった。私は迷うことなく追加で500ユーロをチップに換えた。数字の流れは私のイメージ通りに流れ始めていたからである。基本的には赤。あとは20台か30台かに絞る。14が出たり、15が出たりで、なかなか20台と30台が出ない。23のカバージョにそれぞれ5枚つづ置いた(23に5枚、20と23の間に5枚、22と23の間に5枚、23と24の間に5枚、23と26の間に5枚=23が出れば15枚当たることになる)。そして、終に23が出た!5

ユーロx15枚x36倍=2700ユーロの配当である。次に25に5枚置いた。これまた大当たりで5ユーロx5枚x36倍=900ユーロの配当である。25の5枚はそのまま置いていたら何と続いて次も25が出た!またまた900ユーロの配当。ここでディーラーの女性が交代となった。

ディーラーが変わったら大抵の場合流れも変わる。私は慎重に少しづつ賭けて様子を見た。こちらの流れに来るようでもあり、遠のくようでもある。しかし着実にチップは減って行く。そろそろ潮時である。19から36の間の赤において最後の賭けにでた。ところが黒が出て全部とられたので、潔く即座に席を立った。そして鉄則どおり両替所に走る。4000ユーロ以上の札束をポケットに放り込むと一目散に出口に向った。今日は10カ条がほぼ全部クリアできた。カジノの出口でタクシーを呼ぶ。ボーイには5ユーロのチップを渡す。運転手にホテルの名前と住所を告げる。帰路、運転手がポツリと聞いた。「お客さん、今日は勝ちですか?」私はニヤリと笑い、「いや〜、カジノは人生と同じ。山あり、谷ありですよ」と言った。

(つづく)

文・写真 桑原真夫



桑原真夫

くわばらまさお / Masao Kuwabara

詩人・エッセイスト 広島県鞆の浦出身、北大卒。

1977年よりほぼ毎年スペインを訪問。1984年から1989年まで銀行員としてマドリッドに駐在。ヨーロッパに在住約14年。

スペイン関係主要著書:『斜めから見たスペイン』(山手書房新社)、『それぞれのスペイン』[共編著](山手書房新社)、『スペインの素顔』(河出書房新社)、『スペインとは?』(沖積舎)、『ロサリア・デ・カストロという詩人』(沖積舎)、『我が母へ(ロサリア・デ・カストロ)』(沖積舎)、『ガリシアの歌・上巻及び下巻』(上下とも行路社)、『スペインのガリシアを知るための50章』(明石書店、共編著)、『花へ』[写真詩集](山手書房新社)他多数。『ロサリアの秘密の生涯』(ルース・ボン・ガルサ詩集:土曜美術社出版販売)近刊の予定。『ジャック・ブレレルという詩人』及び『フランソワーズ(遠藤周作のバリの許婚)』を出版予定。



ガリシアの歌 上・下

【著者】ロサリア・デ・カストロ[著]

桑原真夫[翻訳]

【出版社】行路社

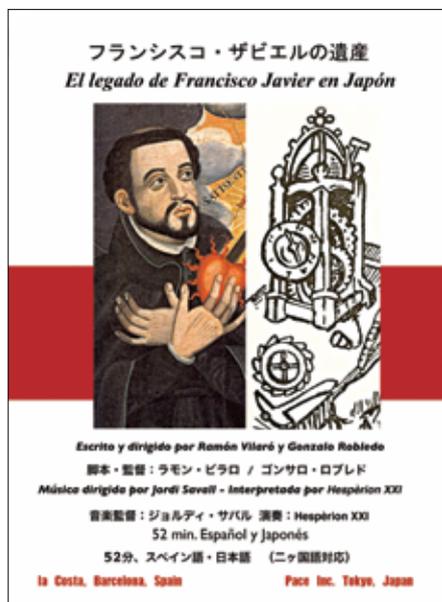
【税込定価】2,520円(各巻)

【ISBN】9784875344193(上),

9784875344308(下)

# DVD 『フランシスコ・ザビエルの遺産』

DVD “EL LEGADO DE FRANCISCO JAVIER EN JAPÓN”



## フランシスコ・ザビエルの遺産

### El legado de Francisco Javier en Japón

DVD 52分 スペイン語・日本語

脚本・監督：ゴンサロ・ロブレド、ラモン・ビラロ

音楽監督：ジョルディ・サバル 演奏：Hespèrion XXI

DVD 52 minutos, español y japonés

Escrito y dirigido por Gonzalo Robledo y Ramón Vilaró

Música dirigida por Jordi Savall e interpretada por Hespèrion XXI

### 戦国日本の大名と「対話」したナバラ人

1549年、キリスト教の布教のために伝説の国「ジパング」を訪れ、2年間滞在したフランシスコ・ザビエルは、日本で暮らした最初の西洋人とされる。

ザビエル生誕500年を記念して2006年に制作されたこのドキュメンタリーは、布教活動で日本各地を巡り、日本人の慣習やものの考え方を学んだザビエルと、その文化遺産を探る。

鹿児島の大名・島津貴久の子孫、滋賀県近江神宮の時計博物館館長、作家・逢坂剛、そして、ザビエルが遺した記録を研究するイエズス会の専門家たちへのインタビューを収録。撮影場所：ナバラ(スペイン)、セトゥバル(ポルトガル)、鹿児島、平戸、山口、京都、東京

**H**asta la llegada de los primeros europeos en Japón, el tiempo se medía sólo cuando se necesitaba. La duración de una ceremonia, del baile de una geisha o una clase de caligrafía se calculaba usando relojes de sol, de agua o quemando barras de incienso de diferente longitud.

Todo empezó a cambiar a partir de 1549 cuando el jesuita navarro Francisco Javier, en su intento por cristianizar Japón en el siglo XVI, trajo una serie de regalos destinados a las autoridades, entre ellos el primer reloj mecánico que vieron los japoneses.

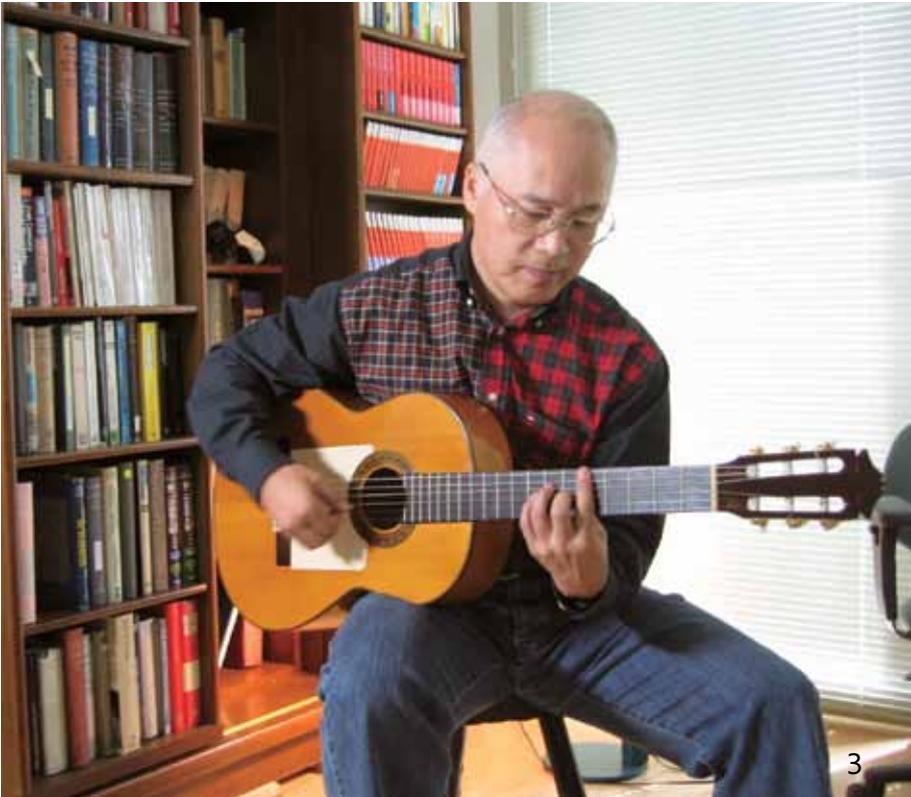
Este dato nos animó al escritor español Ramón Vilaró y a mí a realizar en 2006 un recorrido por la ruta nipona de Javier y explorar sus aportes a la cultura de Japón. El viaje que empezamos en Navarra, la tierra natal de Javier, nos llevó a Setúbal en Portugal, además de a Kagoshima, Hirado, Yamaguchi, Nagasaki, Kioto y Tokio. El documental resultante está lleno de personajes interesantes, profundos y divertidos que nos enseñaron que el legado de Francisco Javier sigue vivo en este país incluso para las personas que no participaron del cristianismo. Las imágenes del director de fotografía Xavier Camí están acompañadas por una exquisita selección de música del siglo XVI dirigida por Jordi Savall.

Gonzalo Robledo

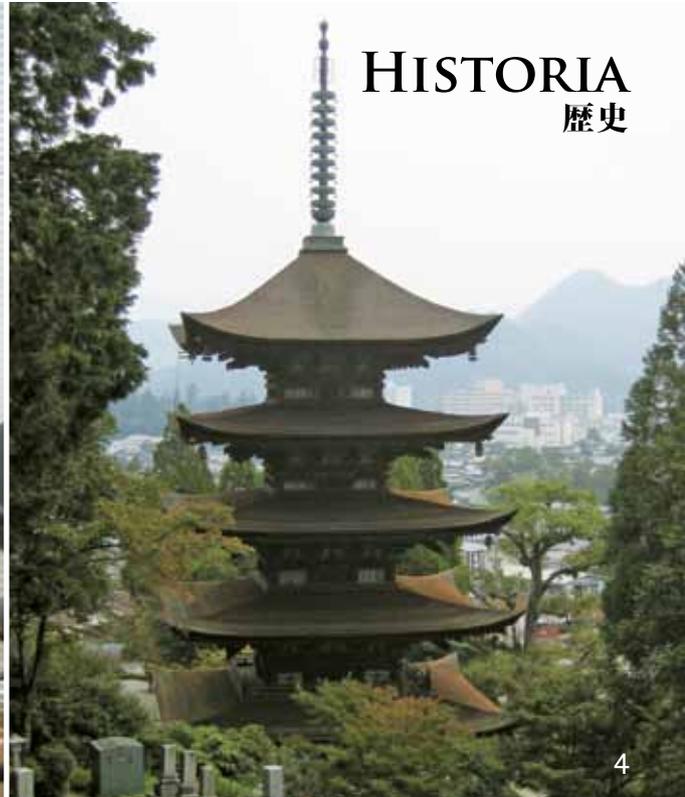
写真提供：Gonzalo Robledo

1. 長崎県、平戸にて。本作の監督であるゴンサロ・ロブレド氏(左)、ラモン・ビラロ氏(右)の二人。
2. 滋賀県近江神宮境内にある時計博物館で出会った、ドラゴンの形をした火時計。銅の玉が等間隔にドラゴンの背から糸でつり下げられ、線香の火が糸を焼き切ることによって玉が落ちて下にあるドラをならすため、ある一定時間の経過を知ることができるというもの。
3. ザビエルの時代に存在した言葉の壁について語る、作家・逢坂剛氏
4. 山口県の風景、五重塔





3



4

西洋人が訪れるようになるまで、日本には継続的に時間を計る習慣がありませんでした。儀式、芸者の踊り、書道の授業など、一定の長さを計る必要がある時のみ、日時計や水時計を用いたり、さまざまな長さの線香が燃えつきるのに要する時間をみたりしていたのです。

1549年、日本にキリスト教を布教しようと来日したスペイン人修道士ザビエルが、大名への土産の品として持参したもののなかに、日本人が初めて目にする機械仕掛けの時計がありました。

この史実に魅せられたスペイン人作家のラモン・ピラロと私は、ザビエルが日本文化に及ぼした影響を探るべく、2006年、彼が生きた道のりを辿りました。生まれ故郷であるスペインのナバラからポルトガルのセトウバル、そして鹿児島、平戸、山口、長崎、京都、東京へ。このドキュメンタリーに登場する博識でおもしろい人たちの案内により、日本にはキリスト教徒以外の人々の間にも、ザビエルが遺したものの影響が色濃く残っていることが明らかになります。シャビエル・カミ撮影の美しい映像と、ジョルディ・サバルによる16世紀の素晴らしい音楽もお楽しみください。

ゴンサロ・ロブレド

## Gonzalo Robledo ゴンサロ・ロブレド

1958年南米コロンビア、ペレイラ生まれのジャーナリスト/プロデューサー。1981年より東京在住。

これまでにスペインの全国紙エル・パイス(El País)通信員、RTVEスペイン国営テレビジョン通信員、そしてEFEスペイン通信社東京支局員を務める。TVE、テレマドリッド、カナル・スール、EFE-TV、カナル・クアトロ等、スペイン語圏の各テレビ局向けに、ルポタージュやドキュメンタリーなど、数々のTV番組の脚本・制作・演出を手掛ける一方、日本でも、NHKテレビ、関西テレビ、映画制作会社「エクセレント・フィルム」向けに番組を制作。日本では、アサヒグラフ(朝日新聞社)、毎日グラフ(毎日新聞社)、コモンセンス(教育社)、カーグラフィック、ナビ(ニ玄社)、フォーカス(新潮社)等、多数の雑誌に写真・記事を掲載。スペインでは、日本及び日本文化に関する記事をGEO、Altair、Islas、Lonely Planetなどの雑誌に掲載。

## ラモン・ピラロ著

『侍とキリスト—ザビエル日本航海記』(平凡社) 発売中



## 難破船の残した友情 DEL NAUFRAGIO A LA AMISTAD

監督・脚本: ゴンサロ・ロブレド  
音楽: エルンスト・レイスグル・制作: 2009年、バチエ株式会社  
ドキュメンタリー 60分 スペイン語(日本語字幕) NTSC  
税込価格: 3,990円

### 沈んだ宝物はまだ御宿沖に眠っている?

1609年、スペインのガレオン船サンフランシスコ号は、フィリピンとメキシコを結ぶ貿易ルートを航海中、台風にあつて千葉県御宿沖で座礁。乗組員317人は、御宿の村人たちに助け出された。しかし、サンフランシスコ号が積んでいたはずの莫大な宝が引き上げられたという記録はない。はたして、御宿の海の底には、400年前の宝がまだ眠っているのだろうか?その可能性をあらゆる側面から探るドキュメンタリー。

絶賛好評発売中!  
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!

ADELANTESHOP(アデランテショップ)  
URL: [www.adelanteshop.jp](http://www.adelanteshop.jp)  
TEL:06-6346-5554 FAX:06-6110-5122

## ゲルニカ異聞——その2

### 外国に疎開したゲルニカの子供たち(2)

次に、ベルギーに疎開したバスクの兄妹についてであるが、ルシス・デ・カストレサナ『もう一つのゲルニカの木』(狩野美智子訳、平凡社、1991)は、当時11~12歳の著者(その妹も含めて)の体験に基づいて、疎開に出発した時からちょうど30年たった1967年に書かれた小説で、この年の12月にセルバンテス賞を受賞した作品である。自分の体験を具体的に書き留めたという点では、まさに例外中の例外の記録といえよう。この小説は映画化された。映画では、ベルメオ港に停泊中のイギリス海軍の駆逐艦の傍らで演じられる離別のシーンはスペイン政府当局の検閲にかかってカットされた。

この兄妹は別々にホームステイをすることになるが、兄(本書では「サンティ」)の逗留先がとても裕福であり、どうもその家の両親と感覚が合わないのが、自分はサンティの「ママ」だという母親の態度に我慢ができなく、具体的に反発する。それが「ママ」をひどく悲しませ、結局、サンティはその家から別の施設に移ることになる。フルリーという児童施設は、学校・寄宿舎・孤児院を兼ねたところで、6歳から16歳まで、120人ほど収容されている。ベルギー人の孤児、両親に問題があって預けられている子供、そこに20数人のバスクの子供たちが加わる。ここの先生の一人が「ブタのスペイン人」とか「スペインは野蛮だ」といったようにスペインを侮辱することがあったが、それらにサンティたちが丸となって抵抗する。また、フルリーの庭の木を「ゲルニカの木」と命名し、その木の下で坐って自分たちの様々なことを決めた。やがて、ベルギーの少年チームとサッカーの試合をすることになり、サンティたちはバスク人だけでチームをつくる。これこそ、1898年に創設のスペインで最も古いプロサッカーチーム「アスレティック・ビルバオ」の選手はバスク人だけという純血主義をサンティたちが踏襲したのだった。そうこうしているうちに、サンティたちの期待していたのと全くの逆、つまりスペイン共和国の惨敗で、スペイン内戦が終結したのだった。その後、寄り道なきバスクの子供たちはベルギーに留まったが、第2次世界大戦の勃発、それにドイツ空軍によるベルギーの空爆、とうとうサンティたちはバスクに戻るようになった。憧れの故郷、バスクはどうなったのだろうか。国境の町イルンに降り立った時の町の様子を、サンティはこう述べている。(前掲訳書、290頁)

イルンに着き汽車から降りると、ホームにも、待合室にも、街にも、たくさんの制服の兵隊や、旗や、フランコやホセ・アントニオ・プリモ・デ・リベラの肖像や、「スペイン万歳」の文字や、ファランヘ党の青シャツ姿が見られた。サンティは違和感を感じ、自分の屋根裏部屋に入り込んで、何があったのか、どう考えたらいいのか、何を経験しているのか確かめようとした。

ところで、バスクの子供たち、さらにはスペインの子供たちというべきか、彼らが疎開した先で最も悲惨な生活を強いられたのは、「人民の祖国」ソ連であった。まさにスターリンの「大粛清」の真っ只中であった。しかも、年長の少年たちは、対独戦の一兵卒として従軍し、戦死したのもいた。それにしても、ソ連での子供たちの生活はどのようであったのか。実は、こうした悲惨さは、孤児院に収容されているロシア人の子どもも同様であった(『スターリンの子供たち』オーウェン・マッシュューズ著、山崎裕康訳、白水社、2011年、111頁)。本書の主人公であるレーニナとミラは姉妹であり、別々の孤児院に収容され、消息は全く杳として不明だったが、偶然にも姉は餓死寸前状態の妹を発見する。妹は、勿論、姉のレーニナを識別できなかった。この収容施設に、スペインからの疎開児童が収容されていたのだった。

結局のところ、大飢饉や粛清、戦争を生き抜いた世代の中で、レーニナとミラは幸運に恵まれたといえるだろう。2人は生き残り、互いに相手を見失うこともなかった。周りを見渡せば、親や兄弟を失った人々が大勢いるのだ。われわれには生き延びたことが信じ難く思えるほど衝撃的な経験をしながら、姉妹が引き裂かれることがなかったのは、おそらく幸運のためだろう。一緒にいたスペインの子供たちが死んだが、ミラは生きていた。レーニナの場合は数千人の子供たちが決してかなわなかった全くの偶然により、妹を発見した。これは感謝してもし切れないほどだ。

イギリスの作家、ロナード・フレーザが、内戦期のスペイン人にインタビューし、オーラル・ヒストリーの手法でまとめた『スペインの血——内戦の体験、1936~39年』(アレン・レーン、1979年)には、スペインの子供たちに付き添い教員として一緒にモスクワに疎開し、そ



写真左：イーストリー収容所の入口  
写真下：イーストリーのテント施設  
(Recuerdos: The Basque Children Refugees in Great Britainより)





写真左：義損金募集のパンフ  
 (Recuerdos: The Basque Children Refugees in Great Britainより)  
 写真上：サウサンプトンでの「バスクの子供たち救済委員会」の  
 キャンペーンカー  
 (出典:『イギリス人の故郷』(川成洋、石原孝哉共著、三修社、1984年))

この小学校でスペイン人児童に教えていた女教師の体験談が収められている。モスクワの小学校では、スペイン語の話せるロシア人女性が指導教官として必ず出席し、ノートを取っていた。授業時間も厳守はもとより、授業の進行状況まで厳密に決められていた。また、週末にはスペイン人教師たちの反省会が開かれ、指導教官から叱責されるのが常であった。やがてこの女教師は精神的に生きづまり、それが原因で入院し、病気を口実にして六か月間のモスクワ生活で終わりを告げ、帰国の途についたのだった。そしてほぼ40年後、彼女はプレーザーに重い口を開いたのだった(テレサ・パミエス『子供たちのスペイン戦争』川成洋・関哲行訳、れんが書房新社、1986年、204～205頁)

ソ連の教育関係者は、明らかに、子供の個人的な自発性に対してかなりの警戒心をもっていました。高学年の各クラスから生徒の一人が監視員に指名され、生徒たちが勉強しているかどうかを確かめるために廊下を歩きつ戻りつしておりました。これは一種の警察官でした。スペインでは、私は生徒たちにしたいことをさせていたのですが。

スペインに戻ると、共産党から自分の体験について語るよう要請されました。わたしは、スペインの子供たちがソ連でいかに十分な世話を受けていたかを説明するだけにとどめておきました。というのも、それは否定しがたい事実だからです。それ以外のことは、私が誰も傷つけたくはなかったので、沈黙することになりました。

それにしても、ソ連に疎開した子供たちの多くが再びスペインの大地を踏むには、実に20年以上の歳月を必要とした。第2次世界大戦、それに厳しい東西の冷戦状況が続いたからである。長い疎開であった。このように、ゲルニカの子供たちを含め、スペインから外国に疎開した子供たちが、内戦が終了し、あるいはその後しばらくして、肉体的にも精神的にも疲弊ききって祖国に帰還した例は枚挙に暇がないであろう。しかし、彼らを「養子」として受け入れた家庭の人たちはどのようにして彼らを送り返したのだったろうか。そしてその後、どのような生活を送ったのであろうか(前掲訳書、91頁)。

ベルギーに疎開した子供たちの一部は、そこで仮養子となった。義父母となったベルギー人たちは、スペイン戦争が終結すると悲嘆にくれることになった。彼らは養子にした「スペイン戦争の申し子」を心から愛していたからである。バルセロナのベルギー領事館に勤務する女性が私に語ったエピソードに次のような話がある。最近のことだが、ブリュッセルで、数人のスペイン人労働者がバスに乗り込んだ。彼らのカスティーリャ語で話しているのを耳にして、バスの車掌が突然泣き崩れた。彼はスペイン戦争終結と同時に「祖国に帰還した」ビルバオの少年を想い出したのである。

確かに人道的な援助とはいえ、実際に「仮養子」を手放すときにはそのように割り切れるはずがなく、「仮義父母」としては辛酸を嘗めつくしたであろう。そして彼らもまた、こうした体験を心の奥底に収めて生きなければならなかったはずである。

文 川成洋



川成洋

かわなりよう / Yo Kawanari

1942年札幌で生まれる。  
 北海道大学文学部卒業。東京都立大学大学院修士過程修了。  
 社会学博士(一橋大学)。法政大学教授。  
 スペイン現代史学会会長。

主要著書

『青春のスペイン戦争』(中公新書)、『スペイン戦争—ジャック白井と国際旅団』(朝日選書)、『スペイン—未完の現代史』(彩流社)、『スペイン—歴史の旅』(人間社)ほか。

フラメンコスタジオ ミゲロン  
Flamenco Studio **MIGUELON**

現役で活躍中のプロが講師をするフラメンコ教室



- ダンス(バイレ)クラス  
60分×4回 10,500円
  - ギター・歌・パルマクラス  
40分×3回 10,500円
- 生徒募集中!**

- 石橋スタジオ 池田市井口堂1-9-3 センチュリーショウエイ VIII F
  - 梅田スタジオ 大阪市北区太融寺町8-10 梅田高速ビル604
- ※ダンス(バイレ)クラス 十三スタジオ(アルディエンテ)にて開講中!

**Tel 072-760-4858**

E-mail miguelon@nifty.com WEB <http://www.miguelon.jp/>

**スペイン語学習コース**

スペイン語学習  
+ 各種アクティビティ +  
宿泊先

通年、年齢不問、レベル別クラス(初級〜上級、DELEコース、個人授業他)



**“VICENTE DEL BOSQUE”  
プログラム**

スペイン語学習 + サッカー + 宿泊先

7月〜8月

**colegiodelibes**  
Y TU... HABLAS ESPAÑOL?

Avda. Italia, 21  
37007 Salamanca (España)  
delibes@colegiodelibes.com  
[www.colegiodelibes.com](http://www.colegiodelibes.com)

**COLEGIO DE ESPAÑA**  
Since 1973  
[www.colegiospana.com](http://www.colegiospana.com) | [info@colegiospana.com](mailto:info@colegiospana.com)

**INTERNATIONAL SPANISH COURSES**  
Learn Spanish in Salamanca

- ・バラエティー豊かなコース
- ・一年を通して入学可能
- ・シニア歓迎
- ・講師向けトレーニング
- ・資格のあるネイティブ講師陣
- ・アクセスの良い好立地
- ・厳選された宿泊先を紹介

The best option to learn Spanish

**IT** **CEELE** **fedele**

Calle Compañía nº 65 - 37002 Salamanca - Spain  
Tel. (+34) 923 21 47 88  
Fax: (+34) 923 21 87 91

**spainryugaku.jp**  
スペイン留学.jp

**spainryugaku.jp**

スペイン  
中南米への  
留学相談  
入学手続き  
無料サポート!

【お問合せ】  
TEL:06-6346-5554

スペイン菓子  
**サン・オノフレ**

〒851-2106  
長崎県西彼杵郡津町左底郷290-1  
TEL 095-860-8180 FAX 095-860-8181

タバスからパエリアまで  
大阪堺は深井の  
スペイン料理のお店

**Barrante**  
バルランテ

スペインコース・飲み放題付き 2時間 お一人様 ¥3,980

堺市中区深井沢町3126  
TEL 072-278-1178  
OPEN 17:00~25:00  
毎週火曜日定休  
<http://www.barrante-hukai.com>

Yo hablo español\*

[I speak spanish]\*  
[Ich spreche Spanisch]\*  
[Je parle espagnol]\*  
[Parlo spagnolo]\*  
[私はスペイン語を話す]\*

[Eu vorbesc spaniola]\*  
[Ik spreek Spaans]\*

**¿hablas español?**  
スペイン語を話しますか?  
**spanish courses**  
inturjoven

**Andalucía ALTO** Association of Language Travel Organizations

アンダルシアで語学留学  
学んで楽しむ、最高のコンビネーション。  
私共の営業部にお問い合わせください。: [www.inturjovenspanishcourses.com](http://www.inturjovenspanishcourses.com)

# 石川敬子フラメンコ教室

SHINOBUKAOKA / TAISHO / NAGAI / GIFU

まったく初めての方から、経験者の方まで、  
楽しく本格的に学べます。

入門クラス(踊り) 90分×4回/月 9,000円  
カンテクラス(歌) 60分×4回/月 8,000円

その他舞踊クラス・ギタークラス・子供クラスetc...  
パルマクラス(手拍子)は無料で開講中。  
詳しくはお問い合わせ下さい。

**ESTUDIO** ■ 忍ヶ丘 ■ 大正 ■ 長居 ■ 岐阜

スタジオは駅から5分以内の近くにあり、通いやすいと評判です。

**TEL** 072-877-6664

**URL** <http://www.estudiopepa.jp/>



スペインフェア2011



確かな技術と音楽する心を育てる

## 吉川二郎ギター教室

初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター  
クラシックギター & ギタルバ

花屋敷教室(宝塚市)

天満橋教室(大阪市)

東京教室(月1回)

静岡教室(月1回)

ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは

TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで

**吉川二郎** 検索

## スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを超える語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106  
Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

**第三書房**

基礎からしっかり学ぶ!スペイン語レッスン  
話せる楽しさを実感しながら、スペイン語を身に付けよう!

新規開講入門クラスのご案内(各クラス定員4名)

【一般コース 全12回/入門クラス】

月曜日 18:30-19:20 / 6月18日-9月3日

火曜日 11:30-12:20 / 6月19日-9月4日

金曜日 20:30-21:20 / 6月22日-9月7日

土曜日 13:30-14:20 / 6月23日-9月8日

土曜日 16:30-17:20 / 6月23日-9月8日

初心者の方対象の新しいクラスなので、スペイン語が全くはじめての方でも安心してスタートできます!各クラス定員になり次第、締め切りますので、お早めにお申込ください。

学習経験者の方は是非一度レベルチェックを兼ねた無料体験レッスン(要予約)をお試ください。レベルに合ったクラスをご案内いたします。

**ADELANTE**はスペイン語  
スペイン語は**ADELANTE**

【お問合せ】06-6346-5554

[www.adelante.jp](http://www.adelante.jp)

フラメンコスタジオ ルイサ  
山内恵子フラメンコクラス

# Estudio Luisa

優雅に、激しく、繊細に...  
フラメンコの魅力を感じてほしい。

これからフラメンコを始めようとしている方。  
興味はあるのだけれど、踊れるかどうか心配な方。  
以前習っていたけれど...ブランクのある方。  
どうぞお気軽にお問い合わせください。

初級～プロまで養成  
(直接指導)

# 生徒募集中!

無料体験レッスン実施中! ※予約制

ご予約・お問い合わせください  
フラメンコスタジオ ルイサ  
TEL./FAX.06-6561-0916  
H.P. 090-3675-5718  
afrwg309@oct.zaq.ne.jp

至大正 千日前通り 阪神なんば線 地下鉄千日前線 **桜川駅** 至なんば

- フラメンコスタジオ
- ロイヤルホスト
- 4階
- 8階
- 桜川駅
- センター
- オートバックス
- 南洲沙見橋線
- 南洲沙見橋線
- 南洲沙見橋線
- 南洲沙見橋線

◆ 詳しくは <http://luisa.littlestar.jp> をご覧ください。

スペインタイルの総付け教室  
& 手作りタイル販売

## スペインタイルアート工房

Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)

大阪市西区南堀江 1-20-23-1003  
Tel & Fax 06-4390-6545  
Email: spaintile@japan.email.ne.jp  
<http://homepage.1.nifty.com/spaintile/>

Vamos a bailar Flamenco

徳田悠乃  
Yuno Tokuda

## Yuno フラメンコ教室

神戸校・姫路校

TEL:090-2701-7952 / 078-797-4303  
E-mail: tacon.tacon@docomo.ne.jp

El español abre las puertas de tu futuro

スペイン語はあなたの未来を開く

新学期キャンペーン  
実施中!

レベルや目的にあわせて  
8コース

スペイン語会話コース	映画サロン
作文添削コース	DELE対策コース
文法コース	ビジネススペイン語
翻訳添削コース	通訳養成コース

日本スペイン文化経済交流センター **エクステンション**  
[www.extensionspainjapan.com](http://www.extensionspainjapan.com)  
Tel. 06-6251-2686 exosaka@osb.att.ne.jp

# スペイン



**入場無料!**

# フェア

# 2012

6月 9日(土) 10:00 - 21:30  
10日(日) 10:00 - 20:30

<http://www.spainfair.jp>



Asociación Cultural Española  
スペイン文化協会



EMBAJADA DE ESPAÑA  
スペイン大使館



AP梅田大阪  
〒530-0002  
大阪市北区曽根崎新地2-3-21 axビル4F  
問合せ: 06-6346-5554 (スペイン文化協会)  
info@adelante.jp

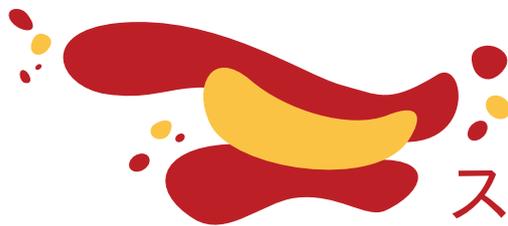


スペイン語の本 & 雑貨

www.

adelante .jp  
shop

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、  
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など  
各種取り扱っています。送料全国一律280円  
8,000円以上のお買い上げで送料無料!



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

Tel: 06-6346-5554

Fax: 06-6110-5122

email: info@adelante.jp

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分ですんなりスペイン語をマスター
- ・定員6名までの少人数制グループレッスン
- ・ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ・振替ができるので忙しくても安心
- ・楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ・目的やペースに合わせて選べるコース  
(一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・  
スペイン語の本を読むコースetc.)

www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館2F

TEL: 06-6346-5554・FAX: 06-6110-5122

E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

無料体験レッスン随時実施中!  
お気軽にお問い合わせください。



www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jp は  
スペイン留学サポートのエキスパート。

【お問合せ】 TEL: 06-6346-5554 / email: info@spainryugaku.jp

スペイン & 中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。  
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- ・学校への出願サポート
- ・学生ビザ申請書記入のお手伝い
- ・留学費用の海外送金
- ・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- ・空港出迎えサービスなど、各種オプションサービスの依頼代行

